

令和7年度

実践の記録

いなよう

第39集

「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた国語科の授業づくり

～おもいを伝え合う場面の設定を通して～

(2年次/2年計画)

秋田県立稲川支援学校

## はじめに

校長 佐々木 義範

秋田県立稲川支援学校は、令和7年度、全校児童生徒76名の在籍でスタートしました。私自身は、稲川養護学校に平成9年から9年間勤務し、この4月に19年ぶりの勤務となりました。

稲川支援学校の子どもたちは、普段は個性的で元気な子どもたちですが、集会などの場面では、話し手にしっかり注目して静かに話を聞くことのできる子どもたちです。平成9年に私が赴任した当時の稲川養護学校の子どもたちの印象も、今の子どもたちに共通しているものでした。本校が、校舎や教材などを大切にして引き継いできたように、子どもたちの良さもしっかりと引き継がれているように感じて、大変うれしい気持ちです。

本校では、令和6年度から7年度の2か年の計画で、「『聞くこと・話すこと』に焦点を当てた国語科の授業づくり～おもいを伝え合う場面の設定を通して～」という研究主題を設定し、研究に取り組みました、

今年度は2年目の研究です。実態に即し生活に生きる学習にするため、全校の国語科学習グループで「年間指導計画を語る会を」を実施しました。昨年度の「授業づくりのポイント」を生かして実践・評価・改善を行いました。また、お互いの授業を参観し合うことができるように「日々研共有の会」も行いました。

特別支援教育課の事業である「授業づくりプロジェクト」において、授業を提示し、全県の支援学校の先生方に助言をいただきました。また、全校授業研究会では、湯沢市教育委員会指導主事の北林尚子先生、羽後町立羽後明成小学校教頭の仙道英悦先生から指導助言をいただき、国語科の授業で大切なことを全校職員で共有しました。

この度、本校が取り組んできた実践研究2年目の取組と成果を、「実践の記録『いなよう』第39集」としてまとめることができました。御高覧いただき、忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いです。授業改善にゴールはありません。皆様からいただきました御指導を次年度に生かし、稲川支援学校の子どもたちの良さを引き継いでいくことができるよう、全校一丸となって授業改善に励みたいと思います。

最後になりましたが、研究を進めるに当たりまして、懇切丁寧に御指導・御助言をいただきました指導助言の先生方をはじめ、御協力いただきました皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも、本校の研究活動に御指導、御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

# 目 次

はじめに

校長 佐々木 義範

第1部	研究計画	1
1	研究主題	
2	研究主題の設定理由	
3	研究仮説	
4	研究計画	
5	研究の実際	
	※資料：授業づくりのポイント、研究部報「Create」より	
第2部	各学部の実践	
I	小学部	15
1	児童の実態と国語科の授業についての課題	
2	今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント	
3	年間指導計画を語る会①	
4	授業記録の方法	
5	授業実践	
6	年間指導計画を語る会②	
7	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
8	次年度へ向けて	【資料：研究部報NO8、9】
II	中学部	23
1	生徒の実態と国語科の授業についての課題	
2	今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント	
3	年間指導計画を語る会①	
4	授業記録の方法	
5	授業実践	
6	年間指導計画を語る会②	
7	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
8	次年度へ向けて	【資料：研究部報NO8、10】
III	高等部	30
1	生徒の実態と国語科の授業についての課題	
2	今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント	
3	年間指導計画を語る会①	
4	授業記録の方法	
5	授業実践	
6	年間指導計画を語る会②	
7	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
8	次年度へ向けて	【資料：研究部報NO6、7】
第3部	研究のまとめ	38
1	「聞くこと・話すこと」の有効な手立てのまとめ	
2	成果と課題	
3	次年度へ向けて	
	【資料：R7の実践より、国語科「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイント、令和7年度の実践より、「聞くこと・話すこと」に関連した単元・言語活動一覧】	

研究同人

# 第 1 部 研究計画

## 1 研究主題

「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた国語科の授業づくり  
～おもいを伝え合う場面の設定を通して～（2年次／2年計画）

## 2 研究主題設定の理由

### （1）本校の実態

本校は、小学部26名、中学部15名、高等部35名、計76名の児童生徒が在籍している。視覚障害や肢体不自由、病弱、自閉的傾向の特性を併せ有する児童生徒、医療的ケアが必要な児童生徒がおり、さらに高等部では不登校傾向の生徒、集団での学習に参加することが困難な生徒もおり、支援方法等に配慮を要する。

児童生徒の雰囲気は明るく、落ち着いており、大人の話静静地に聞くことができる児童生徒が多い。また、経験したこと、好きなこと、興味のあることについて積極的に伝えようとしている。一方で、思いの言語化が難しく、伝えることに難儀する様子や一方的なやりとりになる様子、自信のなさや経験不足から伝えることに消極的になる様子なども見られる。このことは、児童同士、生徒同士のやりとりにおいて顕著である。

### （2）令和4、5年度の研究

令和4、5年度の研究では地域を活用した学習において、児童生徒が、身に付けた力を主体的に発揮するための授業づくりに取り組んだ。児童生徒の意欲が向上するための効果的な地域の活用や、身に付けた力を生かし、自分で考えながら活動する姿につながる単元設定ができた。一方で、学習指導要領等の根拠となるものの活用や、児童生徒が理解したことの言語化等に課題が見られた。

これらの成果と課題を踏まえた研究主題設定に向けて、児童生徒に身に付けてほしいことについて職員にアンケートを取ったところ、本校職員は本校児童生徒に対し、自分の気持ちや考えていることを伝える力や双方向のやりとり、社会に出る際に必要となるやりとりの力を付けてほしいと考えていることが分かった。そこで、言葉を直接の学習対象とする国語科を通して、伝え合うために必要となる、言葉を理解し活用する力を育てていきたいと考え、上記研究主題を設定した。

### （3）昨年度の研究

昨年度は、「聞くこと・話すこと」の力を育てるために必要な授業づくりのポイントを整理することを目的に、各学部で育てたい伝え合う姿を明確にした上で、授業スタイルの検討を行った。教科指導に対応した学習指導案と単元構想シートの活用、授業づくりプロジェクトと連携、通常小・中学校の先生方による指導助言などを通して、児童生徒の「聞くこと・話すこと」のよい変容が見られた。また、職員も授業力が向上した実感を得ることができた。さらに、「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントを整理することができた。

一方で、学習グループを構成する児童生徒の実態の幅への対応の難しさ、他教科等と関連をもたせ国語科の学びを生活の中で生かせるようにすること、児童生徒の気持ちの表出方法や言葉を増やすことなどの課題が見られた。

以上のことから、2年目となる今年度は、実践を通して見出したポイントを踏まえた授業づくりを行うと共に、指導計画の改善やよりよい指導方法の共有等に取り組み、児童生徒の表現力の向上を図りたい。その上で、「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントをさらに改善するとともに、単元と言語活動の具体や実践事例を整理し、「聞くこと・話すこと」の力を育てる有効な手立てをまとめる。

### 3 研究仮説

国語科の授業において、令和6年度の実践から導き出された授業づくりのポイントを生かして「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた言語活動を工夫する。そうすることで児童生徒の自分のおもいを表現する力がより高まるだろう。

### 4 研究計画

#### (1) 研究の内容

##### 【1年次】

国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるために必要な授業づくりのポイントの整理

##### 【2年次】

国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるために有効な手立てのまとめ

#### (2) 研究の方法

- ① 全学習グループでの「年間指導計画を語る会」の実施による、実態に対応し生活に生きる国語科年間指導計画の立案と評価
- ② 「R6研究より、授業づくりのポイント」(以下、「授業づくりのポイント」。P6に添付)を生かした授業実践・評価・改善
- ③ 国語科の授業を見合える機会の設定
- ④ 学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善

#### (3) 年間計画

期 日	研究会、研修等	備 考
4月10日(木)	拡大研究部会①	令和7年度の研究についての検討
4月16日(水)	研究全体会①	令和7年度の研究についての確認
4月30日(水)	学部研究会①	学部研究についての確認
5月21日(水)	年間指導計画を語る会	国語科年間指導計画の検討
6～12月	日々の授業研修	一人一授業の提示
6月11日(水)	学部研究会②	研究テーマに基づいた授業の構想 (指導主事計画訪問に向けて)
7月 7日(月)	指導主事計画訪問	研究テーマに基づいた授業提示
7月28日(月)	学部研究会③	1学期の授業についての評価・改善
8月 5日(火)	ICT研修会 日々研共有の会①	図書・情報部との合同開催 1学期に実践した日々研のVTR視聴
9月29日(月)	第1回 全校授業研究会	授業提示：高等部 指導助言者：稲川支援学校 教諭(兼)教育専門監 伊藤 優子
11月20日(木)	第2回 全校授業研究会	授業提示：小学部 指導助言者：湯沢市教育委員会 指導主事 北林 尚子 氏
12月10日(金)	第3回 全校授業研究会	授業提示：中学部 指導助言者：羽後町立羽後明成小学校 教頭 仙道 英悦 氏
1月 9日(金)	年間指導計画を語る会 学部研究会④ 日々研共有の会②	国語科の取組についての成果と課題 実践の記録「いなよう」作成に向けて 2学期に実践した日々研のVTR視聴
2月 2日(月)	学部研究会⑤	成果と課題、次年度研究の方向性
2月13日(金)	拡大研究部会②	成果と課題、次年度研究の方向性
2月20日(金)	研究全体会②	成果と課題、次年度研究の方向性

※拡大研究部会は、校長、教頭①②、各学部主事、教育専門監、授業づくりプロジェクト担当教員、研究主任、研究副主任で行う。

## 5 研究の実際

### (1) 全学習グループでの「年間指導計画を語る会」の実施による、実態に対応し生活に生きる国語科年間指導計画の立案と評価

#### ①第1回（5月21日）

学部ごとに実施した。昨年度各学部でまとめた『聞くこと・話すこと』の授業づくりで押さえないポイント」（令和6年度実践の記録「いなよう」第38集参照）を踏まえて、児童生徒の実態や興味・関心等に沿い、他の学習活動とも関連した生活に生きる国語科年間指導計画になっているのかについての検討を行った。複数の職員で見合い、他の学習グループの計画も参考にすることで改善に生かすことができた。

#### ②第2回（1月9日）

学部ごとに実施した。評価入りの年間指導計画を基に、授業の実施状況について振り返った。児童生徒の変容、成果、課題について学部ごとに整理した。また、「授業づくりのポイント」を参照し、効果的だった手立てについても話し合った。年間指導計画立案では、どの学部でも児童生徒の興味・関心や実体験、共感、必然性などがある、実態にあった単元を設定することが大切であることを再確認した。

### (2) 「授業づくりのポイント」を生かした授業実践・評価・改善

指導主事計画訪問、日々の授業研修、全校授業研究会で、「授業づくりのポイント」を踏まえた授業提示と協議を行った。

#### ①指導主事計画訪問（7月7日）

各学習グループで国語科の授業提示を行い、指導主事から以下の点で指導助言をいただき、以後の授業づくりに生かした。（○→よい点、◆→改善点）

題材の設定	○興味関心のある題材、実体験のある題材、共感のできる題材、必然性のある題材が設定されている。○実態に対応した星本を活用している。
単元の設定	◆発表の機会を設定し、言語活動の輪を広げる工夫が必要。
授業の展開	○思考を助ける板書がされている。○ICTの効果的な活用がされている。 ○個別・少人数学習が効果的に活用されている。 ○言葉の理解を促す展開がある。 ◆子ども同士の話合い、気持ちの共有場面の設定が必要。
学習環境	○安心して学習できる関係づくりができています。○発言を丁寧に受け止めている。
その他	◆学びを確認できる掲示物の工夫があるとよい。 ◆実生活での言葉の定着の工夫があるとよい。

#### ②日々の授業研修（日々研）（6～12月）

各学習グループで国語科の授業提示を行った。校長、教頭、学部主事、教育専門監、研究部が参観し、放課後に「授業づくりのポイント」を踏まえた協議を行った。

#### ③全校授業研究会

4-（3）にある日程と指導助言者で3回の全校授業研究会を実施した。指導助言及び協議内容については研究部報に記載し、職員間で共有した。（各学部のページに掲載）

第1回全校授業研究会	高等部2年生 国語科 「秋田稲川新報『宿泊学習編』～5W1Hを上手に使おう！～」
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性に合わせた手立て</li> <li>・発言の多少の偏りができないような工夫</li> <li>・めあてに立ち返る場面の設定</li> <li>・振り返りの視点の明確化</li> <li>・言葉の発達の順番と児童生徒のつまずきの原因の把握について</li> </ul>	
第2回全校授業研究会	小学部5年生 国語科 「はらぺこあおむしになってつたえよう～〇〇をたべました～」
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で親しんでいる絵本を題材にした教科横断的な視点に立った単元構成</li> <li>・教師がロールモデルとなる丁寧な言葉遣い</li> <li>・「〇〇先生に読み聞かせるために」という相手意識</li> <li>・「どうすれば〇になる？」という発問の思考の促し</li> <li>・湯沢市の小中学校での取組と、学習評価の在り方について</li> </ul>	
第3回全校授業研究会	中学部2年生 国語科 「『先生紹介ムービー』を作ろう！～話を正しく聞き取る～」
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が安心して取り組むための繰り返しのある構成</li> <li>・助言を控えて生徒の思考を待つ姿勢</li> <li>・生徒同士の会話が難しい場面のコーディネート</li> <li>・デジタル（ICT）とアナログツール（ホワイトボード）の効果的な活用</li> <li>・学習のゴールとから授業を組み立て、学習課題を設定する授業の設計</li> </ul>	

### （3）国語科の授業を見合える機会（「日々研共有の会」）の設定

他の職員の国語科授業を見合うことで授業力の向上を図ることを目的として、「日々研共有の会」を夏季及び冬季休業中に行った。

「日々研共有の会①」では、本時で身に付けることを精選し、めあてとまとめの整合性のある授業づくりをすることや、板書の大切さを感じて自身の授業づくりでも力を入れたいという感想も多かった。

「日々研共有の会②」では、児童生徒が意欲的に「聞く・話す」ために興味・関心、実体験に基づいた題材を扱うことのよさを再確認した職員が多かった。また、子ども同士の学び合いのよさを感じ、実践したいと考えた職員が多かった。

2回の「日々研共有の会」を通して、「いろいろな先生方の授業を見て、自分では思いつかない手立てやアイデアを得られた」という意見が多くあった。

### （4）学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善

国語科の授業における児童生徒の言語活動の様子を記録し、授業改善に役立てることができるよう、児童生徒の実態に応じた記録の仕方について各学部で検討し、その様式を活用した。活用した記録用紙の様式については各学部の実践のページに掲載した。

### （5）職員アンケートの実施

本校職員の国語科の授業づくりへの意識や研究へのニーズを把握するため、春と冬に

全職員にアンケートを実施した。

春のアンケートでは、自由記述での傾向として、「授業づくりのポイント」にある内容の他、言葉の意味を児童生徒が正しく理解し活用するための工夫を挙げた職員が多かった。課題としていることについては、実態差への対応、めあてとまとめ、振り返りの仕方、興味関心のあることと学ぶべきことのバランスについての記述が多かった。

冬のアンケートの自由記述では、「使う言葉」「伝える言葉」を中心に据えた授業づくり、教師が児童生徒をつなぐ役割の意識、学習の見通しと振り返りを重視していることが読み取れた。課題としては、集団学習のよさとの実態差への対応の両立についてが多く見られた。また、言語活動の質を高める難しさ、教師の介入の加減、児童生徒の苦手意識など情意面での配慮、指導内容の焦点化、学習内容の定着や般化が挙げられていた。春のアンケートと比較し、下図のとおりほぼ全ての項目で得点が上がっていた。このことから、1年間の取組を通して国語の授業力が向上したと実感していることや、言語環境を整えることが定着してきていることがうかがえた。

上段：春 下段：冬

1…できない 2…あまりできない

3…まあまあできる 4…できる 小数点第3位以下切り捨て

↑  
ほぼ全ての項目で向上

小	中	高	
2.66 3.00	2.66 3.00	3.00 3.09	子どもの発達の段階に応じた単元(題材)を設定する。(適切な実態把握)
2.93 3.06	2.90 3.00	3.18 3.18	子どもの興味・関心に基づいた単元(題材)を設定する。(興味・関心)
2.33 2.56	2.00 2.80	2.45 3.00	少し難しく、挑戦したいと思える課題を設定する。(内発的な動機)
2.46 2.87	2.16 2.80	2.72 3.00	児童生徒が興味をもったり、学習を通して何が身に付くか分かったりできるような単元(題材)名を工夫している。
2.66 2.87	2.90 3.00	2.90 2.90	単元(題材)を通して身に付けさせたいことを精選し、授業づくりをしている。
2.60 2.87	2.33 2.60	2.63 3.00	単元(題材)の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。(教材・教具の工夫)
2.33 2.87	2.90 2.80	2.60 2.33	補助具や環境設定の工夫により、一人で活動できる場面づくりがなされている。(環境設定)
2.53 2.87	2.90 2.80	2.63 3.00	単元(題材)をとおして、知識や技能を獲得するための活動量が保証されている。(知識・技能の定着)
2.53 2.87	2.33 2.80	2.63 3.04	一人一人が主体的に考えて、判断し、表現したり活動したりする場面を確保している。(主体的な学び)
2.60 2.87	2.66 3.00	2.81 3.29	児童生徒が「聞く・話す」相手や目的を明確にしている。
2.93 3.06	2.33 2.60	2.81 3.04	障害への配慮や認知特性を生かすなど一人一人の学びやすさに対応している。(個への配慮)
2.13 2.37	1.50 2.80	3.00 3.18	子ども同士の学び合いの場を設定する。(対話的)
2.73 2.75	2.66 3.20	3.08 3.09	児童生徒同士をつなぐために、適切な介入を心掛けている。
2.73 3.12	2.33 3.20	3.18 3.29	適切な座配など、学習環境を整理している。
2.46 2.75	2.16 3.00	2.45 2.90	一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。(活動の保障、深い学び)
2.66 3.06	2.60 3.00	2.70 2.77	指導方針や効果的な支援のための教師の役割が明確である。(丁の連携)

↑  
ほぼ全ての項目で向上

3.00	2.66	2.78	児童生徒に対し、正しい言葉で話している。
3.06	2.87	2.81	
3.00	2.33	2.83	
3.00	2.71	2.93	黒板などに正確で丁寧な文字を書いている。
3.06	2.83	3.00	掲示物や配付物においては用語や文字を適正に使用している。
3.31	3.00	3.31	
3.00	2.20	3.00	校内放送などにおいて適切な言葉で簡潔に分かりやすく話している。
3.30	2.85	3.00	
2.80	2.66	3.00	より適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用している。
3.18	3.00	3.25	
2.86	2.16	2.61	教師と児童生徒、児童生徒相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくっている。
2.87	3.12	2.93	
3.20	3.16	3.28	集団の中で安心して話ができるような教師と児童生徒、児童生徒相互の好ましい人間関係を築いている。
3.18	3.00	3.62	

## (6) その他

研究の進捗状況を職員で共有するために、研究部報を13回発行した。その中で、授業力向上の下支えとして、ICT推進リーダー、授業づくりプロジェクト担当、初任者研修担当と連携し、本実践と関連した内容についての記事を掲載した。(P7～14に掲載)

資料

【R6の実践より、授業づくりのポイント】

・「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイント

題材の設定	興味関心、実体験、共感、必然性がある題材
	実態に合った題材
単元の設定	「どんな学習活動を通して」「何が身に付くか」が分かる単元名
	「知識及び技能」を「思考力、表現力、判断力等」を通して指導することを踏まえた単元目標
	単元を通して身に付けさせたいことの精選
授業の展開	「聞く・話す」相手への意識を持たせる。
	「聞く・話す」目的や役割を明確にする。
	「聞く・話す」情報量を整理する。
	教師が適切に介入する（子ども同士をつなぐ言葉掛け、徐々に子ども同士の関わりになるように）。
	発問、発言を補う視覚的な支援を用意する。
学習環境	適切な座配など、教室環境を整理する。
	安心して気持ちを伝えられる、子ども同士、教師と子どもの関係づくりをする。

・授業づくりの基本として、大事にしたいポイント。

準備	子どもの思考をシミュレーションする。
	子どものつまずきをシミュレーションし、対応策を講じる。
導入	学習活動、振り返りにつながるめあてを提示する。 (子どもから引き出す。)
	単元計画を提示する。
展開	子どもが考える時間を確保する。
	活動や思考の流れが分かる板書をする。
	子どもの実態に応じた発問をする。
	ワークシートを用いる場合は、適切な作業量になるようにする。
	個から集へ、集から個へなど、効果的な展開をする。
効果的な場面でICTを活用する。	
振り返り	本時の学びを子どもが自分で評価する場面を設定する。
	できた理由、つまずきの理由を言語化する。
	身に付けた資質・能力を価値付ける。

参考：「秋田の探求型授業」の基本プロセス

「秋田の探求型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、学習過程におけるそれぞれの段階をしっかりと機能させた上で、一連のプロセスとして関連付けて捉え、授業を展開する。



## ICTっていいな①【特別支援教育におけるICT活用の視点】

### 特別支援教育におけるICT活用の視点

#### 視点1

教科指導の効果を高めたり、  
情報活用能力の育成を図ったり  
するために、ICTを活用する視点

- 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、**障害の有無や学校種を超えた共通の視点。**
- 各教科等の授業において、**他の児童生徒と同様に実施。**

#### 視点2

障害による学習上又は生活上の  
困難さを改善・克服するために、  
ICTを活用する視点

- 自立活動**の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。



各教科及び自立活動の授業において、  
**個々の実態等に応じて実施。**

✓ 新特別支援学校学習指導要領では

各教科の指導計画の作成に当たっての配慮事項として、**各障害種ごとにコンピュータ等のICTの活用に関する規定**を示し、指導方法の工夫を行うことや、指導の効果を高めることを求めている。

特別支援教育におけるICTの活用について（文部科学省）より

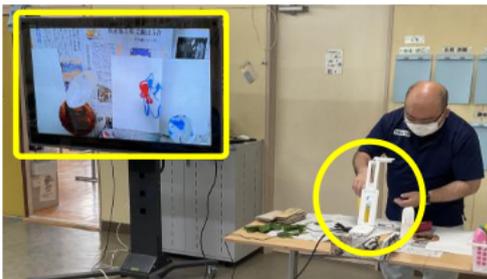
特別支援教育においてICTを活用するにあたり、上図の二つの視点を意識しましょう。特に、視点2は自立活動の視点であり、特別支援教育において大切にすべき視点です。

児童生徒になぜこの支援（機器）が必要なのかを考えつつも、楽しみながら模索する気持ちも持ち合わせていきたいですね。次回からは実践例の紹介をお届けします。

（『研究部報 Create No.1』より）

## ICTっていいな②【日々の実践から】

### ◆ 中学部 美術科【ICT活用の視点①】 「書画カメラ」の効果的な活用



書画カメラ（丸枠）を用いると、教師（制作者）の見たままを映し出す（角枠）ことができ、生徒が制作方法をイメージしやすい範示となっています。

カメラは様々な角度に調節できるほか、本体に磁石がついているため、黒板などの鉄部に貼り付けて使用することができます。iPadに比べ、4K解像度で精密に映し出すことができ、スタンドも不要です。



### ◆ 中学部 生活単元学習【ICT活用の視点②】 「ブルー2」の効果的な活用



ブルー2（丸枠）はBluetooth接続でタブレットを操作できるインターフェースです。タップやスワイプが苦手な児童生徒でも簡単にタブレットを操作できます。この場面では、ロイロノートで連結したカードの操作（送り、戻し）を、ブルー2を使って行い、発表練習をしています。



（『研究部報 Create No.4』より）

## ICTっていいな③【見やすさを高める!!】

ICT 機器を活用した文字の提示にも板書同様の「見やすさ」への工夫が考えられます。「見やすさ」は「読みやすさ」であり、「読みやすさ」は学習内容の「分かりやすさ」へと繋がっていきます。2学期からの学習に取り入れて「見やすさ」を一段レベルアップしてみましょう。

### その①「フォント」

明朝体は発達障害などをもつ方や視力が弱い方にとっては、細かなデザインの影響で「文字全体の形を把握しにくい」フォントとされています。フォントの種類一つで見やすさが変わり、それは読みやすさに直結します。

見やすいフォントとして様々な「UD フォント」がありますが、児童生徒に示す場合は、学習指導要領に準拠した字形や運筆が求められるため、UD デジタル教科書体がおすすめです。

8  
cm

8cm(その③参照)

### その②「背景色と文字色」

黒板同様に背景色を暗色に、文字色を明色にするとコントラストが高く、字の輪郭がはっきりとして見やすいです。

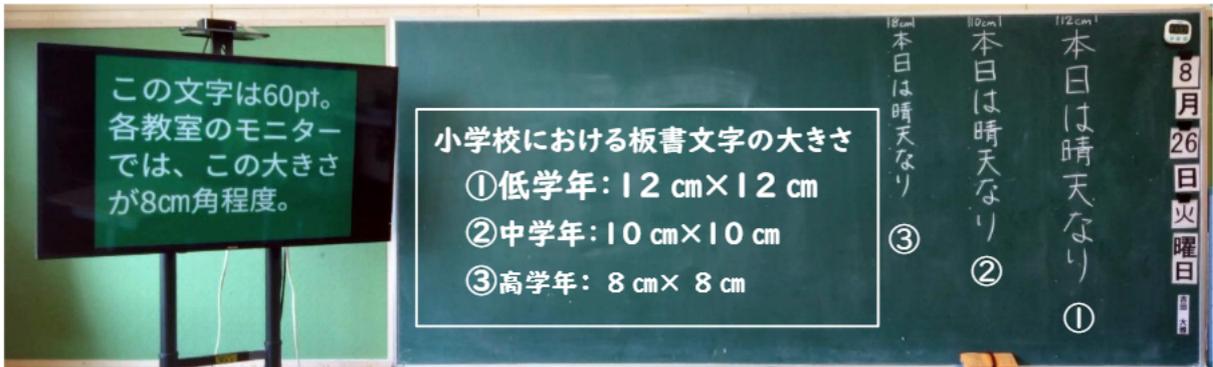
なえ う かた

苗の 植え方

- ①プランターに土(つち)をいれる
- ②苗(なえ)を植(う)える
- ③苗(なえ)に土(つち)をかける
- ③プランターをはこぶ
- ④水(みず)をかける

背景色を黒、文字色を白にすると最も明暗差がありますが、黒背景はモニターへの映り込みが助長されますので要注意です

### その③「文字の大きさ」



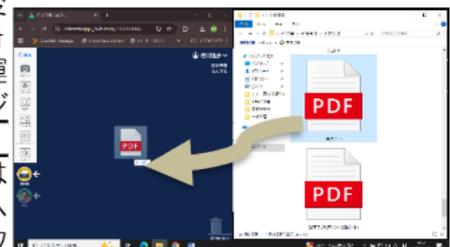
小学校における板書文字の大きさは上記が目安とされています。モニターで映し出す際もそのような大きさになるようにすると見やすい提示となります。映し出すモニターの大きさや、プロジェクターとスクリーンの距離に等に応じて適切な大きさの文字となるようにデータを作成しましょう。

各教室に設置されているモニターでは、60ポイント前後の大きさで小学校高学年程度の大きさとなるようでした。(モニターが前に来ている関係で写真では大きく見えますが…)

※その①「フォント」の枠が8cm×8cmの枠です。(印刷した場合)

### おまけ「UD デジタル教科書体をロイロで表示するには？」

ロイロノートは文字の大きさや色、背景色などは自由に変えることができますが、Word や PowerPoint のようにフォントを変える機能がありません。国語科の授業等で字形や運筆を意識させたい場合は、Word や PowerPoint で UD デジタル教科書体を使って作成したデータを PDF として保存し、そのデータをロイロノートで使用するとよいです。その際はパソコンのブラウザでロイロノートのノートを開き、そこへ PDF ファイルをドラッグアンドドロップすることで容易に取り込むことができます。



## ICTっていいな④【県内の特別支援学校 ICT 活用動向】

今回は特別支援学校 ICT 活用推進リーダー協議会で共有された情報をお伝えします。これまでと違う特徴として生成 AI の活用が挙げられます。

### 【ICT の視点②に基づいた実践紹介】

使用機器やアプリなど	概要
点字ディスプレイ 点字タイプライター	情報科における墨字指導
iPad、 <u>ロイロノート</u>	自分が頑張った部分や友達の良いところを写真やイラストで選びながら記入。
iPad、 <u>かなトーク Mini</u>	VOCA アプリを使用した意思表示
iPad、 <u>Droptalk</u>	VOCA アプリを使用した意思表示
iPad	歯磨き動画の提示
iPad、 <u>ロイロノート</u>	共同編集機能（共有ノート）を使った学習発表会の台本作成
iPad、 <u>ロイロノート</u> <u>FaceTime</u>	病气療養生徒に対する遠隔授業
iPad、 <u>SUNO</u>	音楽生成 AI による修学旅行の歌の作曲
iPad、 <u>Pages</u>	ワープロアプリを使用した実習礼状作成
iPad、 <u>Droptap</u>	VOCA アプリを使用した意思表示
iPad、 <u>EyeMot</u> 、 <u>SOUNOS VALKA</u>	視線入力装置による意思表示 学習発表会練習
iPad、 <u>Zoom</u>	校外学習先との事前学習
iPad、 <u>ロイロノート</u> 、 <u>Canva</u>	<u>ロイロノート</u> でパンフレットの記事のインタビューを録音し、 <u>Canva</u> でレイアウト。
iPad、 <u>スイッチ教材</u> 、 <u>カメラ</u>	作業製品の写真撮影と説明書きの印刷
iPad、 <u>Droptalk</u>	VOCA アプリを使用した意思表示

### 【持ち帰り学習について】

- ・実施済が13校 未実施が3校
- ・取り組み状況  
長期休業中の課題、PDF 拡大教科用図書を持ち帰り、不登校生徒の連絡手段、国語数学の宿題、一行日記、学級日誌

### 【生成 AI の活用について】→全ての学校で活用している

- ・生徒の活用状況  
画像生成、作曲、学習発表会での台本作成
- ・教師の活用状況  
会議等の議事録作成、画像生成、通知表の所見や道徳の評価文言の見本作成、指導案作成

今後は、今回知り得た情報を深堀してお伝えしていきます。ここが知りたいなどございましたら、岩田までお気軽に声をお掛けください。

# ICTっていいな⑤【ChatGPTに相談してみよう～生成AIの校務への活用～】

前回お伝えした県内の動向によると、生成AIを活用している学校が多数ありました。そこで今回は数ある生成AIの中からChatGPTを取り上げ、その活用例をお伝えします。

ChatGPTは様々な質問や指示をするとその答えを提供してくれる人工知能ですが

「特別支援学校の教員に対してICTの情報をお伝えしています。今回は『ChatGPTの校務への活用の仕方』をお伝えたいです。どんな活用方法があるか教えてください。一枚ものの資料にまとめてください。」

と指示を出したところ、以下の回答がありました。

- ChatGPTとは？  
文章作成・要約・整理が得意な対話型AI  
正解を出す機械ではなく、考えを整理するための道具
- 校務での主な活用場面
  - 授業・学級経営  
指導案・単元計画のたたき作り  
自立活動と教科の関連づけ文章  
学級だより・通信文の下書き
  - 個別の指導計画・評価  
実態把握メモの文章化  
評価文の表現整理・言い換え  
長文を簡潔にまとめる
  - 会議・事務作業  
会議メモから議事録作成  
文書の要約・箇条書き化  
誤字脱字・表現チェック
  - 保護者・外部対応  
専門用語をやさしい表現に変換  
行事説明文・想定Q&A作成
- すぐ使えるプロンプト（指示）例  
「以下のメモを、個別の指導計画用の文章にしてください」  
「保護者に配慮したやさしい表現に言い換えてください」  
「校内共有用に簡潔に要約してください」
- 活用のメリット  
白紙から考えなくてよい → 時短  
文書の質が安定 → 属人化防止  
若手・非常勤の支援にも有効
- 使用時の注意（重要）  
個人情報を入力しない  
そのまま使わず、必ず確認・修正する  
最終判断は必ず教員が行う
- ひとこと  
ChatGPTは仕事を代わりにする存在ではなく、先生の負担を軽くする『相談相手』です。

このように様々な活用方法があるので、早速、国語科の単元計画について次のように相談（指示）してみます。

「あなたは特別支援教育のプロです。特別支援学校学習指導要領国語科小学部第二段階程度の実態である特別支援学校中学部3年生4人に対して、国語科の聞く話す力を高める学習の単元計画を作ってください。」

と指示を出したところ、以下のように単元計画の提案がなされました。

了解しました。  
「小学部第二段階程度の実態のある特別支援学校中学部3年生（4名）」という前提で、国語科「聞く・話す力」を高める単元計画を、実態重視・生活に生きる力を軸に作成します。（※特別支援学校学習指導要領〈国語〉の趣旨に沿っています）

- 【単元名】「伝えてみよう・聞いてみよう — 気持ちや考えを言葉でつなぐ —」  
【単元のねらい】（小学部第二段階相当）
- 知識・技能  
・身近な言葉（人・物・行動・気持ち）を使って、簡単な言葉や文で話すことができる  
・相手の話を最後まで聞こうとし、必要に応じて相づちや返事ができる
  - 思考力・判断力・表現力  
・「だれに・何を伝えるか」を意識して、伝えたいことを選び、順序立てて話そうとする  
・話を聞いて、分かったことや感じたことを簡単な言葉で返すことができる
  - 学びに向かう力・人間性等  
・人とやり取りする楽しさを感じ、話す・聞く活動に進んで参加しようとする  
・相手を意識して、表情や態度で関わろうとする
- 【児童生徒の実態想定】（例）
- ・言葉は身近な名詞・動詞が中心
  - ・二語文～短文での発話が可能（個人差あり）
  - ・集団でのやり取りは支援（視覚提示・役割明確化）が必要
  - ・話したい気持ちはあるが、一方的・断片的になりやすい

【単元の期間】 全8時間（45分×8時間）

時	主な学習内容	聞く・話す力の視点
1	単元導入「話す・聞くってどんなこと？」	話す・聞く経験を共有
2	身近なことを話そう①「好きなもの」	単語・短文で話す
3	身近なことを話そう②「できること・がんばっていること」	順序を意識して話す
4	話を聞こう①「友だちの話を聞く」	注目・相づち
5	話を聞こう②「聞いて答えよう」	簡単な応答
6	やり取りしよう①「質問してみよう」	質問・応答
7	まとめ活動「みんなに伝えよう」	発表的活動
8	振り返り・評価	自己評価・成功体験

【各時間の具体的な指導計画】（要点）

- 第1時 単元導入  
「話す・聞くってなに？」  
・教師のモデル提示（話す人／聞く人の役割）  
・絵カードで「はなす」「きく」を視覚化  
・ミニ活動：教師の話を聞いて〇×クイズ
- ② ねらい  
・話す・聞く活動への安心感をもつ
- 第2時 身近なことを話そう①  
「好きなものを伝えよう」  
・絵カード・実物（食べ物・遊び・キャラクター等）を使用  
・文型支援「わたしは〇〇がすきです」  
・一人ずつ短く発表（立つ／座ったままなど実態配慮）
- ③ 評価の視点  
・言葉・指差し・身振りで伝えようとしているか
- 中略——

このレベルの回答が瞬時になされます。検索ページで「ChatGPT」を検索後、メールアドレスによるID、パスワード設定後にログインして無料で使用できます。（ただし、無料アカウントはやりとりの回数に制限があります。）

私自身 ChatGPT に相談することで強力な相談相手が一人増えたと感じます。このような回答に「単元計画を全5時間にしたい」や「ICTを活用したい」などと要望を伝えると、さらに回答してくれます。

ただし、生成された回答は、児童生徒の細かな実態に合っているかを必ず確認しましょう。その上で日々の指導・支援に役立ててみてはいかがでしょうか♪

（『研究部報 Create No.10』より）

# 令和7年度 特別支援学校 授業づくりプロジェクトについて（報告） ～パート1～

6月2日（月）に県立聴覚支援学校を会場に令和7年度特別支援学校授業づくりプロジェクト研修会が行われました。今回は研修の目的の説明、聴覚支援学校の授業参観や教育専門監による講義、グループ協議を行いました。今後の国語科の授業づくりの参考になる部分を紹介していきます。

## なぜ、言語能力の育成を図るのか？

〈特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（小学部・中学部）より〉P206

### 第3節 教育課程の編成

#### 2 教科横断的な視点に立った資質・能力

##### (1) 学習の基盤となる資質・能力

##### ア 言語能力

○言葉は、児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすもの

○言語能力の向上は、児童生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題

○全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図ることが必要

○特に言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい

是非、開いて読んでみてください

## 講義 言語能力の育成を図る授業づくりの基礎・基本

〈聴覚支援学校 佐藤 操 教諭（兼）教育専門監より〉

### 知的障害者である児童生徒への指導のポイント

#### ①音声によるコミュニケーションの回路（脳内処理）に沿った配慮

・情報の量、情報の整理＝「ゆっくり」「わかりやすく」「短い文で」

・注意の持続、自分で取り組む、見直し（指導する側の環境整備）

・楽しみながら繰り返し取り組む工夫

#### ②発達段階を考慮した指導

・粘り強い、安定した対応

・生活レベルの言語を優先に

・よいキャッチャー、よいピッチャーに

#### ③自尊心を育てる

・認められる機会を増やす（受け身にならないように）

児童生徒に何を分かってもらうかを  
考え、話すことを考える。

楽しく、繰り返しながら覚えられる工  
夫が必要。

今後も研修会の内容等の情報を「研究部報 Create」でお伝えしていきます。パート2に続く。

（『研究部報 Create No.2』より）

## 令和7年度 特別支援学校 授業づくりプロジェクトについて（報告） ～パート2～

11月20日（木）に、第2回全校授業研究会と同日開催で授業づくりプロジェクト授業研究会が行われます。提示授業は小学部4年生国語科です。それに向けて、10月7日（火）に特別支援課の小野先生、山田先生、視覚支援学校教育専門監の落合先生、本校教育専門監伊藤先生のご指導の下、県央・県南地区の授業検討会が本校で行われました。始めに2校時の国語科の授業を参観していただき、その後に単元構想等を行いました。その際にご助言いただいたことをご紹介します。



○国語科の授業だけでなく教育活動全体で学びの定着を図る工夫をする。

他教科や行事等で国語科と関連した学習を行ったり、日常生活の中で国語科の授業でねらっている言葉を意識して使ったりする場面を設定する。

○児童の見え方への配慮

児童が見やすい文字の大きさやコントラストに配慮した教材や板書を大切にする。なぞり書きでは、自分が書いた線が見えやすい筆記用具を用いる。

**児童の好きな「はらぺこあおむし」を題材に、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりしました。単元を通して、言葉で伝える気持ちや力を育てたいと考えています。**

11月20日（木）は本校の第2回全校授業研究会と授業づくりプロジェクト授業研究会が同日開催されます。全校の先生方には色々のご協力いただくことがあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（『研究部報 Create No.7』より）

## 第1回初任者授業研究会協議内容について

9月9,10日に、初任者2名による生活単元学習の授業研究会が行われました。基本的な学習指導の在り方と合わせた指導の授業づくりの二つの視点で行われた協議でしたが、本校が研究で取り組んでいる「聞くこと・話すこと」に関する手立てや授業づくり全般に共通する内容がありました。初任者のよかったところと協議で話題になったことをお伝えします。※枠内は佐々木校長の指導助言です。

### ①基本的な学習指導の在り方について



#### <聞くこと>

- ・話を聞くときの姿勢など、学習の基本的なルールについて、いろいろな場面で繰り返し指導する。
- ・話に注目させる工夫が必要。聞いてほしいときに待つ、声に抑揚をつける、声の大きさを変える、「話します」「聞くよ」と声を掛ける。
- ・子どもを見てゆっくり話す。言葉を精選して短く伝える。大切なこと、覚えてほしいことはオーバーに伝える。大事なことを表すアイテムを出し、注目を集めてから話す。

#### <話すこと>

- ・積極的に発言する児童だけでなく、他の児童の声や表情もひろっていく。机間指導しながら、良いところを全体に伝える。
- ・言葉の発信だけでなく、動きの反応にも対応する。
- ・動画を見た後の児童から出たキーワードは、その場でカードかホワイトボードに記入して活用する。
- ・児童の発表に対して賞賛する、聞き取れていたか質問する、他の児童にコメントを求めていくなどして、一方的にならないようにする。
- ・ワークシートの活用は、話し合いの前段階の活動として有効。段階を踏んでグループでの話し合いにつなげていく。小学部段階で、話し合い活動の基礎をつくっていく。

発話が苦手な児童に対して、有料アプリ(ドロップタップ)を活用していました。  
☆詳細を知りたい方は、図書・情報部にお声掛けください。



- ・モデルとなる児童を見つけてクローズアップし、話が聞ける集団をつくっていく。
- ・子どもにとって魅力がある、集まってくる教師に。
- ・授業で子どもを育てていける、一人一人をどうやって育てていくか、しっかり語れる教師に。
- ・子どもをタレントに例えると、教師はプロデューサー的な役割。子どもたちの魅力を引き出す教師に。

### ②合わせた指導の授業づくりについて

- ・学習活動の必然性、実際の生活へどのように生かされていくのか、学習のゴールを明確にする。
- ・授業のどの活動を通して、各教科のどんな力を伸ばそうとしているのかを意識した言葉掛けをする。
- ・個別の指導計画の生活単元学習の目標と本時の目標との整合性を。個別の指導計画を授業に活用していく。目標を一つに絞ると支援の方法や評価が考えやすくなっていく。

- ・わかりやすい活動のストーリーやゴールを設定する。
- ・知識や技能が定着するよう繰り返しの活動を行う。
- ・指示、集中力、言葉掛けではなく、意欲がもてるような「しかけ」をつくる。(店長、隊長など)

(『研究部報 Create No.6』より)

## 第2回初任者授業研究会協議内容について

11月27日、12月2日に、初任者2名による国語科の授業研究会が行われました。協議では、児童が安心して学習できる関わり方や丁寧な教材研究の成果などが話題になりました。いただいた指導助言から、小学部の国語科の授業づくりについてのアンケート結果で評価が低かった項目に関する内容をお伝えします。

- 子ども同士の学び合いの場を設定する。(対話的)
- 児童生徒同士をつなぐために、適切な介入を心掛けている。



- ・まとめは「できたかできなかったか」ではなく、次に生かせることを子どもたちの声からまとめるもの。めあての「～しよう」を「～するためには？」に置き換えてその答えを考えるようにする。
- ・話せる動詞を増やすことをねらいにしているのであれば、ゲームや写真で扱う動詞の数を増やし、児童に話をさせながら進める。
- ・選んだ動詞が相手に伝わる表現かどうか、本人が分かることが大切。「選んだ言葉でよく分かったよ(伝わったよ)」という価値付けがあるとよい。
- ・一問一答の授業にならないように、「予想される児童生徒の反応」から、どのように「引き出したい児童生徒の反応」にもっていくかを考えておく。
- ・単語での言葉が返ってきたら、「そうですね。『○○です』なんだね。」などと言葉を付け加えて返す。自然な会話の中で文章化を促す働きかけをする。
- ・質問者、説明者の役割を交代する、説明者にだてめがねや指示棒を準備するなど、意欲がもてるような展開にする。

- 少し難しく、挑戦したいと思える課題を設定する。
- 一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。(活動の保障、深い学び)

- ・助動詞「れる・られる」は小学校高学年で扱う内容ではあるが、日常生活でよく使われる表現。提示した「おにぎりが僕に食べられた」という例文よりも、「僕のおにぎりが○○さんに食べられた」の方が自然な表現。正しい言葉の使い方、生活上で生かすことができる指導をする。
- ・「ステップアップの質問です」と題して、「するどいきば」の話から、「他に、『するどい』きばのある動物を知っていますか」「他に『するどい』ものって何がありますか」と広げていく。「生き物の体の特徴を表す形容詞」などの理解を糸口にして、知識を広げていく。

(『研究部報 Create No.11』より)

## 第 2 部 各学部の実践

I 小学部

II 中学部

III 高等部

## I 小学部の実践

### 1 小学部児童の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子22名、女子4名、計26名である。日常生活の場面では、基本的な生活習慣の確立や身辺自立に向けて、実態を踏まえた細かな支援を必要とする。
- ・絵本の読み聞かせを教師と一緒に楽しむなど身近な人の関わりを受け入れたり、興味や関心のある物事であれば聞こうとしたりする。
- ・語彙が少なく自分の思いをうまく伝えられなかったり、話し方が分からず一方的に話したりすることがある。
- ・小学部では児童がやりとりの楽しさを感じ、自分から聞いたり話したりできる授業づくりが必要である。

### 2 今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント

昨年度の研究や小学部の実態から次のポイントを押さえて授業づくりを行うこととした。

- ・生活年齢、発達段階に応じた学習内容を設定する。
- ・歌や遊び的な内容や要素を取り入れた単元や生活単元学習、遊びの指導と関連させた単元を実施していく。
- ・ねらいや獲得してほしい言葉を明確にし、授業を展開する。
- ・集団学習と個別学習の効果的な取り入れ方を意識した学習計画を行う。

### 3 年間指導計画を語る会①

#### (1) 実態把握

国語科の授業づくりで押さえるポイントを活用して年間指導計画を作成できるように、各学年で学習指導要領にある「目標・内容一覧」を参考にして「聞くこと・話すこと」の実態把握を行った。(写真1)

#### (2) 年間指導計画の意見交換

昨年度の研究から年間指導計画作成上の留意点を確認した。

- ①歌や遊び的な内容や要素を取り入れた題材・単元計画を行う。
- ②生活単元学習、遊びの指導と関連させていくことを意識する。
- ③繰り返しの学習計画にする。
- ④他者評価場面を設定する。
- ⑤単元名は、その単元で身に付ける資質・能力を子どもに伝えるもの。副題で何を通して学ぶか、ということ伝える。単元のゴールを明確化する。
- ⑥読むこと、書くこともバランスよく計画する。

これらの視点で指導計画ができていないか、計画時数などについて1対1での学習グループ、小グループでの学習グループ、学級全体での学習グループで意見交換を行い、年間指導計画の作成に生かせるようにした。次の表は意見交換での記録である。

(写真1)



## 7 「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

### (1) 児童の「聞くこと・話すこと」の変容

#### 【聞くこと】

- ・相手の話に興味をもち、最後まで聞いていた。
- ・集団学習で友達の話を書くことで「〇〇さんの答えは違うのでは」と自分と友達の考えの違いに気付く場面が見られた。
- ・ラジオドラマの発表で友達のせりふを聞いてから自分が話すことが分かり、集中して聞くようになった。

#### 【話すこと】

- ・名詞や動詞の語彙が増えたり、言葉（名詞・助詞・形容詞）を正しく使えたりできるようになった。
- ・大きな声で話すなど相手に伝わるように話せるようになった。
- ・イラストカードへの指さしやジェスチャーで気持ちを伝える場面が増えた。

### (2) 授業づくりの成果と課題

#### ○実態や興味・関心に合わせた題材・単元の設定

→授業づくりのポイントを踏まえながら年間指導計画や単元計画を立案することで児童の実態に合った題材・単元設定になっていた。児童の身近な話題、体験したこと、興味・関心のある学習内容を取り入れることで聞くこと・話すことの力が向上した。

#### ○単元を通して身に付けさせたいことの精選

→発問の仕方を丁寧に考えたり、教師がモデルとなったりすることで言葉の獲得、活用につながった。また、「聞く・話す」情報量を整理することにもつながった。

#### ○児童が意欲的に取り組める授業展開の工夫（集団、個別の学習、複数の課題の組み合わせ）

→昨年度からの継続した授業づくりのポイントを意識することで、個別で集団学習に向けた準備や集団での学習の振り返り、集団で個人の力を発揮したりお互いの頑張りを認め合ったりすることができた。

#### ○発問、発言を補う視覚的な支援の充実

→丁寧な実態把握を行ったことで、実態に合った教材教具の準備や言語活動の設定ができ、児童からの発信が増えた。

一方で、対教師のやりとりになりがちで、児童同士の学び合いややりとりの設定が難しかった。また、日常生活場面においても獲得してほしい言葉を意識して教師が関わる必要であった。

## 8 今後に向けて

2年間の国語科の研究を進めたことで、ねらいの設定から年間指導計画の作成、言語活動の設定、学習のグルーピングなど様々なことを検討し、教科指導に対する意識が高まった。昨年度の研究より、小学部では「伝える意欲を育てる段階である。児童が安心できる場の設定や伝わる実感を大切にしたい」ことを共通理解し、授業実践を積み重ねてきた。今後もこの姿勢を大切に、児童が相手の話を聞いたり、自分の考えや気持ちを伝えたりする力をどの授業でも伸ばしていきたい。

また、この2年間で様々な言語活動を実践してきた。児童同士の学び合いや関わりたいという意欲を育てられるような更なる言語活動の充実が必要だと考える。そのために日常生活での活用につながるような視点をもった言語活動を設定していきたい。

## 5 授業実践

### (1) 小学部2年Aグループ

#### ◆児童の実態

- ・男子1名、女子1名の2名。2～4語をつなげて話し、身近な大人と会話を楽しむ児童と、自発的に話すことは難しいが質問したり、あらかじめ話す内容を決めたりすると話すことができる児童である。
- ・どちらも、語彙が少ない、話し方が分からない、発音に不明瞭さがあるなどでうまく話せず、話すことに自信がない様子や伝わらずに困ってしまう様子が見られる。
- ・日常生活や学習で教師と様々な会話をすることで、言葉や話し方を覚えたり、はっきりとした声や発音で話そうとしたりするようになってきた。

#### ◆題材名 「おはなし しよう」

#### ◆題材目標

- ・身近な言葉の使い方や2～4語程度をつなげた話し方が分かって話す。(知技)
- ・教師の質問を聞き、自分で言葉や簡単な文を考えて話す。(思判表)
- ・何について話すかが分かって、自分なりに言葉で話そうとする。(学人)

#### ◆学習指導要領の内容

小学部国語 2段階ア(ウ)、Aア

#### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

おもいを表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を覚えることができるように、押さえない言葉をはっきりと繰り返し言ったり、児童が復唱する場面を設定したりする。</li> <li>・自分の言葉や文で話すことができるように、児童の好きなものや児童が経験したこと、身近な人、身近な出来事を話題にする。</li> </ul>
児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<p>○好きなお菓子について、教師の質問に答える形で学習を進めた。質問に対し、自分なりに言葉を考えたり、思い出したりして話していた。</p> <p>▲教師の質問に対し、単語で答えるのみになっていた。(例：T「好きなお菓子は何ですか」C「うまい棒」)</p> <p>○お菓子に関連した質問をしたことで様々な言葉を思い出して話そうとした。 (例：T「どこで買いますか」C「コンビニ」など)</p> <p>▲語彙が少なく、答えにつまる様子が見られた。</p>



#### ◆題材を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに考えて言葉を話そうようになった。</li> <li>・教師の言葉を聞いて、真似して正しく話そうようになった。(言葉や発音、助詞など)</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心に合わせた内容にする。</li> <li>・子どもの様子に合わせて教師が質問しながら学習を進める。</li> <li>・教師が話し方のモデルを示し、復唱させる。</li> </ul>

(2) 小学部 4 年 C グループ

◆ 児童の実態

- ・男子 2 名。絵本が好きで読み聞かせを楽しんだり、自分が体験したことを言葉で伝えようとしたりして人と関わることが好きである。
- ・平仮名や片仮名を読んだり、指さしや単語で気持ちを伝えたりする児童と、不明瞭ではあるが簡単な会話のやりとりができる児童がいる。
- ・2 名とも語彙は増えてきたが、状況に応じて適切に言葉を選んで使えなかったり、単語での表現だったりする。

◆ 単元名 「はらぺこあおむし～〇〇を食べました～」

◆ 単元目標

- ・身近な食べ物の名前が分かる。(知技)
- ・二語文での話し方が分かる。(知技)
- ・教師の発問を聞いて考え、言葉で答える。(思判表)
- ・写真などを見て二語文を考えて話す。(思判表)
- ・教師や友達の話に関心をもったり、自分から発問に答えたりする。(学人)
- ・二語文での話し方が分かって話そうとする。(学人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・小学部国語 2 段階 ア (イ) (ウ) A ア B イ C エ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもいを表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が給食を食べている写真や、あおむしが色いろいなものを食べている動作を見て話す場面を設ける。</li> <li>・あおむしのペープサートを用意し、自分が食べたいものを選んで食べたものを話す活動を設ける。</li> <li>・友達が話す場面を聞いたり、評価したりする活動を設ける。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○自分が知っている言葉を使って伝えようとするが増えた。</p> <p>○自分の写真を見て「〇〇(食べ物)」、「たべました」と話した。</p> <p>▲お互いが読み聞かせしている姿を評価する活動では、評価が難しい児童もいた。読み聞かせの表現方法は個々で違っていてもよかった。</p> 

◆ 単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇を食べました」の話し方をまねて話せるようになった。</li> <li>・友達の話をよく聞くようになり、友達が発言した言葉を覚えていたり、イラストカードを使って友達の様子を評価したりした。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が食べている写真を活用したり、ペープサートを使って動作化する学習活動を取り入れたりした。</li> <li>・伝えたい相手を決めたり、オリジナルの絵本を制作したりする学習活動を取り入れた。</li> </ul>

### (3) 小学部 5年

#### ◆児童の実態

- ・男子3名。3名とも人と関わることが好きで、親しい相手には、自分から話し掛け、やり取りを楽しんでいる。
- ・相手に伝えようとする意識が低く、早口や小さな声で話してしまう。また、少ない語彙で自分が話したいことだけを一方的に話してしまう。
- ・最後までその場にとどまって相手の話に耳を傾けて返答することが難しく、スムーズなやり取りが難しいことも多い。

#### ◆単元名 「めざせ おはなしめいじん！ 2～ほしいものをきいてみよう～」

#### ◆単元目標

- ・インタビューのポイントが分かり、相手に伝わるように話す。 (知技)
- ・インタビューで聞いたことを振り返り、プリントに書いたり、友達に伝えたりする。 (思判表) (学人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語 2段階 Aウ、エ
- 3段階 Aエ、オ、カ

#### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもいを表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習やインタビューを動画で撮影しすぐに振り返る。(自己評価)</li> <li>・「おはなし名人(T2)」による他者評価。</li> <li>・インタビューがうまくできたら自分の「おはなし名人アイテム」が増えていく掲示物の工夫。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上手なインタビューのポイントを質問すると、「めざせおはなしめいじん1」でのインタビューのポイントを思い出して答えた。</li> <li>○インタビュー内容を「ほしいクリスマスプレゼント」にしたことで、友達や教師の話に興味をもって聞いたり、自分の欲しいプレゼントについて積極的に話したりした。</li> <li>○インタビューの際の話し方を決め、原稿を作成したり、事前に練習をしたりすることで、自信をもってインタビューした。</li> <li>▲相手の解答に合わせて返答することが難しかった。</li> </ul> 

#### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話に興味をもって聞いたり、意欲的に自分のことを伝えたりした。</li> <li>・「ゆっくり話す」「聞こえる声で話す」などのポイントを意識し、相手に伝わるように気を付けてインタビューした。</li> <li>・相手が話し終わるまで、その場において相手の話を聞いた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー内容を児童が興味のある内容や身近な内容にする。</li> <li>・インタビューの際に頑張るポイントを一人一つに決め、授業前に確認したり、評価の際に活用したりする。</li> <li>・T2が「おはなし名人」になり、良い話し方の見本を示したり、児童の良かった点を評価したりする。</li> </ul>

## 第2回全校授業研究会(小学部)の見どころ

### 小学部研究では…

- 低学年はクイズや劇遊びなど、遊びの要素を取り入れて繰り返し行う学習、高学年は「放送局」や「インタビュー」など児童の興味関心を生かし、意欲的に「聞く・話す」学習を繰り返し行う学習を計画し、取り組んでいます。前期・後期でステップアップする視点をもつことを学部全体で確認しています。研究計画にある「学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善」について、2学期からは、教師によるエピソード記録と単元を通じた児童の変容の記録を行っています。

### 小学部4年国語③グループは…

- 男子2名の学習グループです。簡単な会話をする児童と指さしや単語で気持ちを伝える児童です。もっと表現力がついて、気持ちを伝えられるようになってほしいです。
- 絵本「はらぺこあおむし」は二人にはなじみがあって、好きなお話です。
- 二人とも、食べることに興味があります。学級の生活単元学習で給食センターについて勉強したことで、より一層給食を楽しみにするようになりました。



### 今回提示する授業では…

- 二人の好きな「はらぺこあおむし」のお話に、それぞれが好きな給食メニューを載せたオリジナルの絵本を使って、ペープサートを動かしながら「〇〇を食べました」と話す練習をします。
- お互い聞きあったり動画を使って自己評価したりして、上手に話せるように頑張ります。

(『研究部報 Create No.8』より)

## 第2回全校研(小)を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

第2回全校授業研究会の指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

### 指導助言(湯沢市教育委員会 指導主事 北林尚子先生)より

授業を見ていただいて、以下の指導助言をいただきました。

- ◎ 身近で親しんでいる絵本を題材にしていることと、教科横断的な視点に立った構成がよい。
- ◎ 子どもたちとの信頼関係が築かれている。丁寧な言葉遣いがよい。教師がロールモデル。
- ◎ 「〇〇先生に読み聞かせるために」と、相手意識をもたせているのがよい
- ◎ 上手に話すためのポイントを子どもと共に確認し、見通しをもたせたことが主体的な学びにつながっている。また、「どうすれば〇になる?」という発問で思考を促したのがよかった。
- ◇ 評価規準が複数あったが、本時は1つでよい。食べ物の名前が分かる、食品を「飲み物」「食べ物」に区別できる、は知・技。絵を見て「〇〇を食べました」と話すのは思・判・表。本時のねらいをより明確にすることが大切である。そして、その評価規準を達成した子どもの姿をもっと具体的にイメージして指導案に示すことで評価しやすくなる。

合わせて、湯沢市の小中学校での取組と、学習評価の在り方について丁寧にお話しいただきました。

- 湯沢市の小・中学校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、一人一台端末を生かしICTで補完することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を進めて、資質・能力の育成を目指している。「主体的・対話的で深い学び」の実現により、資質・能力がバランス良く育成される。その際、子どもたちが学んだことの意義や価値を実感することが大切である。
- 各教科の目標の実現に向けた学習状況を把握し、資質・能力の育成に生かすこと、さらに、学習評価の妥当性についても考えていくことが大切である。
- 学習評価の目的は、教師の指導改善、子どもにとっては学習を振り返って次の学習へ向かう力を持つことである。PDCA サイクルを回し、評価を次の授業に生かす。学習中の反応がよかったり態度がよかったりしても、学習内容を理解できていないケースもある。授業者はどのような姿が見られたら資質・能力が身に付いたと言えるかを具体的に考える必要がある。

特別支援学校では個々の実態に応じた手立てを講じることには積み重ねられてきていますが、多様な他者との協働により学びを深める授業づくりについてはまだまだ深められるのではないのでしょうか。また、学習評価については、資質・能力が身に付いたかという観点をしっかりもつことが大切であると教えていただきました。今後の授業づくりに生かしていきましょう。

## グループ協議より、「授業づくりのポイント」を踏まえた成果と改善案

### 題材・単元の設定

◎興味関心のある絵本等の活用で、興味をもって学習している。また、次時への期待感がある。

### 授業の展開

◎ペープサートを動かしながら話す場面設定で、自然に話していた。

◎同じ話形で繰り返し話す場面設定で、話せていた。

◎タブレットを使った振り返り場面の設定で、「おれみたいに大きい声だといい」等の評価をしていた。

▲他者評価が難しい。→◇**聞く・関わる姿勢を育てる。教師も一緒に評価する。めあてに立ち返る。**

◇**本時で身に付けさせたいことの精選**

▲児童同士の関わり→◇**ペープサートではなく、パペットを使い、児童同士のやり取り場面を設定する。**

**児童同士をつなぐ言葉掛けをする。**

◇**動作を付けて話す場面を設定する。**

### 学習環境

◎穏やかな雰囲気 ◇**横並びの座配、画面の大きさが適切だったか検討する。**

興味関心等に沿った題材の設定や、安心して気持ちを伝えられる関係づくりについては本校のスタンダードになりつつあります！本時で身に付ける資質・能力の精選、それをどう児童生徒が身に付け、学びを自覚できるようにするかが課題です。北林先生のお話も踏まえて指導に生かしていきましょう。

(『研究部報 Create No.9』より)

### 【授業の様子】



## Ⅱ 中学部の実践

### 1 中学部生徒の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子12名、女子3名、計15名である。
- ・日常生活においては、身近処理がほぼ自立している生徒、全般において支援が必要な生徒と実態は様々である。
- ・自身が経験したことや興味のあること、要求について一生懸命伝えようとする。自分の考えがまとまらなかったり、言葉にすることに自信がもてず消極的になったりすることがある。
- ・話すことに比べ、聞くことに対する意識が低い。話者への注目を促したり、文字や写真等で視覚情報を補足したり、聞き慣れた言葉や短い言葉で伝えたりすることで話を理解する。
- ・各学習グループ内での国語科における実態差に幅があり、題材や単元の設定に工夫が必要である。

### 2 今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント

昨年度の研究や今年度の中学部生徒の実態から、以下の点を押さえて授業づくりをすることとした。

○昨年度の研究で整理した「授業づくりのポイント」や、「伝えま表」(表1)を参考にした授業づくりの実践

- ・「伝えま表」は今年度の実践を通して改良をしていく。

○生活や他教科・行事と絡めた題材づくり

- ・これまで生活単元学習で行っていた「行事の振り返り作文」を国語科において年間を通して行うことにした。行事を通して実際に感じた思いや感情を大切に国語科の目標や視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいく。

	伝え合う場面の設定で大切な視点	具体的な手立て
1	見通しをもてるようにする	パターン化、繰り返しの活動
2	興味をもてるようにする	好きなことや友達のこと、家庭との連携
3	イメージしやすくする	経験したことイラストや写真の提示
4	表出できる語句を選んだり、考えたりできるようにする	語句一覧表、話型の提示
5	構成要素が理解できるようにする	5W1Hの提示

(表1) 伝えま表

### 3 年間指導計画を語る会①

#### (1) 実態把握

国語科の「聞くこと・話すこと」の実態を学習指導要領の段階と内容に照らして整理し、各学習グループの特徴や課題を明確化した(写真1)。中学部全体の特徴としては、小学部2段階から中学部1段階に該当する生徒が多いことが分かった。

#### (2) 年間指導計画の意見交換

中学部で大事にしたい「生活や他教科、行事との関連」の他、昨年度の授業づくりプロジェクトの「授業づくりのポイント」から題材作りの項目に着目して話し合いをし、以下のような意見が出された。

- ・「力を身に付ける→発揮する」のサイクルを年間で繰り返し設ける。
- ・身に付いた力を発揮する場を意図的に設定し、子どもたちに身に付いた力を実感させる。
- ・伝える場面では、円滑なコミュニケーションがとれるよう、実態に応じて表出しや

(写真1) 国語科における実態

すい方法を検討したりツールを活用したりする。

- ・自信のなさを繰り返しの学習でカバーする。
- ・行事の振り返り作文では、行事から振り返りの学習までの時差があるため、行事で感じた気持ちを授業でどのように思い起こさせるか、手立ての工夫が必要である。

#### 4 授業記録の方法

生徒の姿を中心に有効だった手立てや課題についてエピソード記録方式で記録することにした。対象の単元を「行事の振り返り作文」とし、以下の点に留意し、記録、活用をした。

- ・国語科以外の学習、生活場面での変容も見取る。
- ・記録は定期的に学部回覧し、各学習グループの学習内容や成果の共有をしたり、変容に気付いた際は加筆したりしていく。

前回の単元からの改善点や板書、授業で使用したワークシートなども記録に記載していくことで、より授業の様子が分かりやすい記録になった(写真2)。

#### 5 授業実践

※ P 26 ページに記載

#### 6 年間指導計画を語る会②

生徒の変容や今年度の取組における成果と課題について話し合った(次節に記載)。国語科の年間指導計画の作成に当たり、中学部で大切にしたいことについて、以下の点が挙げられた。

- ・集団と個の活動のバランスのとれた授業構成
- ・生活体験に即した題材、単元の設定
- ・学習したことを反復したり、活用したりする機会の計画的な確保
- ・年間を通じて行事等を振り返る単元(継続)

今年度、中学部で取り組んだ「行事の振り返り作文」は、生徒にとって経験を言葉に換え、伝える大切な学習活動になった。繰り返しの活動なので変容を見取りやすく、国語科で行うことで実態に応じた指導ができた。そういったメリットを活かし、今後も継続して実践していくことを共通理解した。

#### 7 「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

##### (1) 生徒の「聞くこと・話すこと」の変容

- ・出来事と言葉が結び付くようになった。
- ・授業内外での発言量が増加した。
- ・気持ちを表す言葉を自発的に使う姿が見られた。
- ・経験したことに対する質問に答えられるようになった。
- ・相手に伝わるように、体の向きや声の大きさを意識して話すようになった。



(写真2) 授業記録

## (2) 授業づくりの成果 (○) と課題 (▲)

○「振り返り作文」における生徒の伝え合う姿を引き出す効果的な指導方法や手立ての整理

→「伝えま表」を改善し、「振り返り作文で伝えま表」として整理した(表2)。

○授業記録を通じた変容の見取りと授業改善

→学部教員間での生徒の変容の見取りや手立ての共有が授業改善につながった

▲幅広い実態への対応の難しさ

→個に応じた支援を意識しつつも、十分に支援を行き届かせることに課題が残った。

▲様々な場面での言語活動の設定

→国語科での変容に比べ、生活場面での変容が乏しかった。全ての学習場面で「聞く・話す」経験を広げる必要性を実感した。

▲「聞くこと」の指導の充実

→「話すこと」に比べ、「聞くこと」の指導の成果が乏しかったため、手立ての工夫が必要だった。

学習活動 (☆支援のポイント)	ねらい	有効な手立て
<b>Step1</b> <b>材料集め</b> ☆記憶を呼び起こすための視覚支援と言葉を引き出す支援	・出来事を思い出し、キーワードを挙げる ・語彙を広げる、新しい言葉や表現に気付く ・詳しく表現する ・イメージと言葉をつなげる、言葉を出しやすくする ・イメージや気持ちと言葉を繋げる	・写真を複数提示する ・写真を見て挙げたキーワードを集団で共有する ・注目したいところは写真を拡大表示する(表情や目線、手元等) ・生徒の発音を写真にメモする ・言いたいけど言葉にならない箇所を、教師が代弁する
<b>Step2</b> <b>文作り</b> ☆生徒のできることをつなげて文章にするためのテンプレートやワークシートの工夫	・語彙を増やす、穴埋めしながら単語の意味を考える ・文の組み立て方、助詞を知る、慣れる ・語彙を増やす、気持ちと言葉をつなげる ・気持ちを理解する、イメージ化する ・苦手意識を軽減する、表現のハードルを下げる	・穴埋めて文を作る ・単語の並び替えて文を作る ・気持ちの言葉一覧から選択する ・気持ちをイラスト化する ・書くことへの苦手意識がある場合は iPad の音声入力などを活用する
<b>Step3</b> <b>伝える、伝え合う</b> ☆相手に伝える意識づくりと経験を	・話す・聞くポイントを理解する ・音声で助詞や文の組み立てに慣れる、相手に伝わる話し方、伝える意識を向上させる ・内容を理解する、聞く意識を向上させる ・伝える意識を向上させる、伝わる喜びを実感する	・話す・聞くポイントを事前に提示する ・完成した文を音読する ・発表後のクイズ形式で聞き返しをする ・作文を伝えたい相手に読んでもらいコメントをもらう
<b>&lt;発展&gt;</b> <b>作文を活用した学習活動例</b>	・理解した言葉を定着させる、書字への意欲を向上させる ・伝える意識を向上させる、伝わるように話し方を工夫する ・5W1Hを理解する、情報を整理する、内容を読み取る	・前時以降に選んだ気持ちの言葉(イラスト)を次時以降にも選択肢に入れたり、なぞり書きの活動に活用したりする ・発表の様子を録画して、話し方の振り返りに活用する ・書いた作文から、5W1Hを引き出す

(表2) 振り返り作文で伝えま表

## 8 今後に向けて

前節での成果と課題から、次年度に向けて以下のように取り組んでいくことを確認した。

○国語科での「行事の振り返り作文」の取り組みを継続、改善する。

→今年度の成果を継承しつつ、「作文の題材を行事のみにしぼらない」、「学部での発表の場を設定し、話す・聞く経験を積み重ねる」などの改善を行う。

○「聞くこと・話すこと」の経験を広げる場の設定と経験の積み重ね

→国語科で学習した「話すこと」を活用し、「聞くこと」等の学びへとつなげていく。毎日の振り返りや、中学部での発表の場等での活用を通し、国語科以外の学習場面でも、「聞くこと・話すこと」の経験の積み重ねを図る。

## 5 授業実践

### (1) 中学部 1年

#### ◆児童生徒の実態

- ・男子3名、女子1名。うち1名が時間における自立活動を行っている。
- ・興味・関心のあることを中心に身近な教師や友達と日常会話を楽しむことができる生徒、自分の思いや要求中心に簡単な言葉で伝えることができる生徒、発声や表情、身振り等で伝えることができる生徒がいる。

#### ◆単元名 「思い出を伝えよう」～後期作業学習週間～

#### ◆単元目標

- ・出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れる。(知技)
- ・後期作業学習週間で体験したことについて感じたこと、考えたことを文にしたり、イラストや単語から選んだりする。(思判表)
- ・相手に伝わるように文の表現や話し方を工夫しようとしたり、相手の話を聞いて理解しようとしたりする。(学人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語1段階 ア(ア)、(イ) ・小学部国語3段階 A イ

#### ◆授業の実際

<p>おもいを表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く前に写真や動画等で振り返ったり、話しやすい雰囲気ですりトークをしたりする活動を設ける。</li> <li>・言葉集めでは、生徒のありのままの表現を受容し、生徒のつぶやきに共感したり、言葉を書き留めて話題を広げたりする。</li> <li>・「気持ちの言葉」をイラストカードで一覧にし、選択する活動を設ける。</li> </ul>	
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真を見ながら、思い出したことを「ねんど」「のぼす」「かんつぶし」「がんばった」など単語で話した。</li> <li>○友達の話した言葉に共感し、自分の作文に取り入れた。</li> <li>○「相手に伝わるように話すためには？」と聞くと、顔の向きや声の大きさに気をつけて発表した。</li> </ul>	

#### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見て「これは何？」と聞くと、単語や文で様子を伝えられるようになってきた。</li> <li>・気持ちの言葉を一覧から選択できるようになってきた。</li> <li>・作文に意欲的に取り組むようになってきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を言語化する際は、写真や動画等の視覚的な情報を提示したり、動作化したりして言葉とイメージをつなげる。</li> <li>・「気持ちの言葉」のイラストカード一覧を、単元以外の振り返り活動で繰り返し活用する。</li> <li>・伝える相手を設定し、作文を読んでコメントをもらうようにする。</li> </ul>

## (2) 中学部 2年Aグループ

### ◆児童生徒の実態

男子3名。興味・関心のあることに関しては、自分から発言したり、積極的に教師や友達に話し掛けたりすることができ、相手と共通の話題であれば問い掛けにも応じる。興味・関心がないと自分に関することでも関心が低いことがある。また、朝の会や学部合同の授業など教員が全体に向けて話をする場面で、話す人に注目し続けることができず指示を聞き逃すなど、話を聞き取ることに課題がある生徒もいる。

### ◆単元名 「先生紹介ムービー」を作ろう！～話を正しく聞き取る～

### ◆単元目標

- ・話の内容や前後の言葉等に着目し、自分に関係のある質問項目について、話の内容を正しく聞き取ることができる。(知技)
- ・身近な人のインタビュー映像を見聞きして、聞いたことを書き留めたり、分からないことを聞き返したりしながら、話の内容を捉える。(思判表)
- ・身近な人の話を聞く活動を通して、他者が話すことに関心をもち、逃さず聞き取って他者に伝えようとする。(学人)

### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語1段階 ア(ア)イ(ア) A ア

### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもいを表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップの活用</li> <li>・一度で聞き取ることができなかつた際に、聞き返してもよい環境づくり</li> <li>・生徒によって聞き取りの難易度を調整したこと、メモを取りやすくするためのワークシートの工夫</li> </ul>	
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が担当する部分を聞き逃さないよう、インタビュー映像にも耳も注目していた。</li> <li>○一度で聞き取ることができなくても、「もう一回見たいです」と自分から発言することができた。</li> <li>○長い文でも何度も聞き返して、正しく聞き取ろうという意欲が見られた。</li> <li>▲正しく聞き取ることができていたかを全員で見合う場面で、自分の担当でない項目では集中力が切れて別の方を向いていたことがあった。友達同士で評価し合えるような工夫が必要だった。</li> </ul>	

### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取ったことをメモする力が身に付き、メモを取る速さも徐々に上がっていった。</li> <li>・聞き逃したときに、「もう一回お願いします」と自分から発言する姿が増えた。</li> <li>・教師へのインタビュー映像を聞き取った内容について、授業後の休み時間にその教師に話し掛けたり、次に質問したい相手を自分で選んだりするなど、他者への興味が広がった場面があった。</li> <li>・授業以外の場面でも、「話を聞くときのポイント」を実践しようとする姿が見られた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取ったり、正しく聞き取ったりする活動への意欲付けになるようなウォーミングアップの設定やワークシートの工夫。</li> <li>・見通しをもって参加できるように、授業の流れを一定にする。</li> <li>・聞く場面と話す場面のめりはりを付ける。</li> </ul>



## 第3回全校授業研究会(中学部)の見どころ

### 中学部研究では…

・「力を身に付ける→発揮する」のサイクルを、年間を通して繰り返し設けることを意識して年間指導計画を作成しています。身に付いた力を発揮する場を意図的に設定し、身に付いた力を実感させます。また、伝える場面では、実態に応じた表出方法を検討します。研究計画にある「学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善」について、2学期からは、教師によるエピソード記録と他の場面での変容の記録を行っています。

### 中学部2年国語1グループは…

・男子3名の学習グループです。興味・関心のあることに関しては、積極的に発言したり、教師や友達に話し掛けたりします。一方で、興味・関心がないことになると、相手の話へ関心をもつことや、耳からの情報を処理することが苦手な面もあります。



### 今回提示する授業では…

- ・楽しく「話を聞き取ること」ができるように、生徒たちが考えた質問で身近な先生にインタビューする単元を設定しました。本時ではインタビュー映像から必要な情報を聞き取り、映像に字幕を付ける活動をする中で、必要な情報を正しく聞き取る力を身に付けます。
- ・話を聞き取ることが苦手な生徒でも「話を聞きとることができた！」という実感や経験を積み重ね、自信を付けたり、聞き取る力を身に付けたりできるよう、自立活動の視点も随所に取り入れながら、生徒の実態に応じたワークシートや視覚的支援を用意し、聞く活動を具体化していきます。

(『研究部報 Create No.8』より)

## 第3回全校研(中)を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

第3回全校授業研究会の指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

### 指導助言(羽後町立羽後明成小学校 教頭 仙道英悦先生)より

授業を見ていただいて、以下の指導助言をいただきました。

#### 題材・単元の設定

- ◎インタビューは情報収集と評価を兼ね備えた高度な活動であるが、非常に有効な学び。身近な人を相手にすることで、安心感が確保されていた点が良い。
- ◎繰り返し練習する構成により、生徒が安心して取り組める。
- ◎作ったムービーを友達に見てもらって相手意識の持たせ方がよい。

#### 授業の展開

- ◎本時の展開にスムーズにつながるウォーミングアップの活動がよい。
- ◎生徒が困っていても、すぐに助言をしない教師の「待つ姿勢」がよい。
- ◎生徒の実態に合わせた細かな配慮があった(色分け、個人差に合わせた課題、ワークシート等)。
- ◎生徒同士の会話が難しい場面で、言葉をつなぎコーディネートしていた。
- ◎ICTの活用で、聞き逃したことを繰り返し確認できた。聞き直しをしたいと言った生徒の言葉を「大事なことだ」と価値付けていた。
- ◎アナログツールであるホワイトボードも効果的に活用していた。

学習環境 ◎温かく安心できる雰囲気と教師の表情や動作がよい。 ◎学びの足跡が分かる板書がよい。



「R6の実践より、授業づくりのポイント」に対応させて授業を評価していただきました。本時の授業がポイントを押さえて授業づくりがされており、授業者からも生徒個々の目標が達成されたと評価があったことは、2か年の研究の成果ともなると思います。また、「秋田の探究型授業」の基本プロセスを踏まえて、具体的な改善案をいただきました。

- ・学習のゴールとから授業を組み立て、学習課題を設定する。
  - ・言語活動はねらいに近づくための手段。
  - ・「学習の見通し」は自力でゴールを目指すための地図とコンパス。
- ◇本時の目標から、本時のまとめを「正しくメモを取るためには、大事な言葉に注目して、最後までしっかり聞くことが大切」と設定し、本時の学習課題を「正しくメモを取るためにはどうすればよいか」としてどうか。

本時のめあてを設定することは、難しさを感じている先生方が多くいます。上記の内容は、国語だけでなく全ての学習で参考になるものです。

### グループ協議より、「授業づくりのポイント」を踏まえた成果と改善案

題材・単元の設定 ◎繰り返し取り組む ◎段階的に取り組む単元構成

#### 授業の展開

◎動きのあるウォーミングアップ ◎聞く必然性の設定（字幕を付ける、答え合わせをする）

◎何に注目して聞くかを明確にした。

▲生徒同士の関わり、評価場面の設定。 ▲自分が担当していない質問への興味の持たせ方。

◇教師が、あえて間違った文章を字幕にして気付きを促す。◇室井先生クイズを出す。

◇正しく聞き取る手立てが何だったのかを振り返りで落とし込む。

学習環境 ◎安心感のある雰囲気 ◎整理された見やすい板書

授業づくりのポイントに「教師が適切に介入する」とありますが、それだけでなく、生徒同士が互いの話に耳を傾けたいくなる仕掛けについても話題になった協議でした。第2回全校授業研究会のまとめで「多様な他者との協働により学びを深める授業づくり」について触れましたが、互いの話を聞き、話したくなる手立てを講じることで、「聞くこと・話すこと」の「協働的な学び」を展開することができるのではないのでしょうか。

(『研究部報 Create No.10』より)

#### 【授業の様子】



### Ⅲ 高等部の実践

#### 1 高等部生徒の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子26名、女子9名、計35名である。身近処理に支援を要する生徒、人との関わりや集団での学習に不安をもつ生徒、自分の職業適性を考えながら就労を目指す生徒など幅広い実態の生徒が在籍している。
- ・写真やイラストを手掛かりに気持ちや経験を伝えられる生徒、見聞きしたことに意見や感想を交えて大まかに説明できる生徒がいる。一方で、自分の思いを伝えようとする意欲が全体的に低く、質問されるまで待つことが多い。うまく伝わらないと話すことをあきらめてしまう傾向がある。また、和やかな場面では話せるが、現場実習など普段と違う環境では日常会話や自己表現が消極的になりやすい。
- ・教師と個別に確認することで聞いた内容を理解できる生徒や、身近な人の話や簡単な放送を聞いて大まかな内容をつかめる生徒がいる。しかし、興味のない話題では、相手を見て話を聞けなかったり、理解に必要なメモが取れなかったりする課題がある。
- ・興味のある話題では「伝えたい気持ち」が強く、相手の話の途中でも話し始めてしまい、一方的な会話になりやすい。

#### 2 今年度、国語科の授業づくりで押さえるポイント

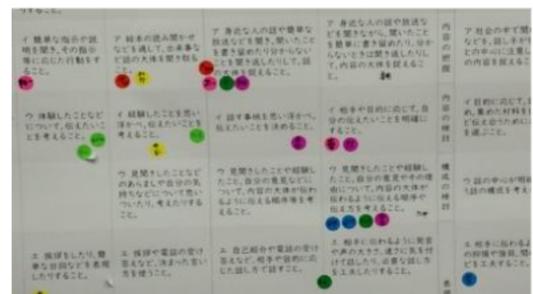
昨年度の研究や高等部生徒の実態から、次の3点を押さえて授業づくりをした。

- ①生徒の実生活(興味・関心)や学校生活(行事や学習)と関連付けた単元設定
- ②生徒の実態や特性、実態差に応じた手立ての工夫(ワークシート・ICTの活用)
- ③生徒自身が学びを振り返ったり、教師が生徒の学びを評価し、授業を振り返ったりするための板書や振り返りシートの工夫

#### 3 年間指導計画を語る会①

##### (1)実態把握

学習指導要領にある[目標・内容の一覧]を参考にし、生徒の国語科領域における実態把握と協議を行った。協議では、生徒の実態が、想定した指導の段階より低い段階にあることや、同じ学習グループ内でも指導段階に実態差があることなど、現在指導している学習グループの特徴を把握することができた。(写真1)



(写真1)国語科における実態把握

##### (2)年間指導計画の意見交換

学習指導要領の小学部・中学部段階を指導するグループと、中学部・高等部段階を指導するグループに分かれて、Ⅲ-2-①「生徒の実生活(興味・関心)や学校生活(行事や学習)と関連付けた単元設定」とⅢ-2-②「生徒の実態や特性、実態差に応じた手立ての工夫(発問・ワークシート・ICTの活用)」について意見交換を行った。(表1)

今回、意見交換で挙げた内容は研究部が提示した「授業づくりのポイント」にある内容と重なる部分が多かった。

中・高段階グループ	小・中段階グループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行や宿泊学習、佐竹太鼓など生単と絡めた単元作りが多かった。行事の振り返りを年間通して同じ流れで取り組む工夫も見られた。</li> <li>・書字に苦手意識をもち、抵抗を示す生徒が多い。実態に合わせて負担感なく書字の活動をする(ウォーミングアップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのグループも学校生活の流れに沿っている。</li> <li>・意欲をもった生徒が多い。この意欲を生かしていきたい。</li> <li>・単元名は生徒の実態に合わせて変えていく必要がある。単元名で意欲をもつこともあるが、</li> </ul>

<p>ブ、ロイロの活用など)。          ・この実態のグループは「必然性」が特に重要で、単元のゴールを明確にする、伝える相手を意識させる工夫などが効果的。発表場面の設定、廊下に掲示しリアクションシールをもらうなどの工夫をしたい。</p>	<p>単元名が凝ったときは、何を学ぶか分かるように副題を付ける工夫があればよい。</p>
--	--

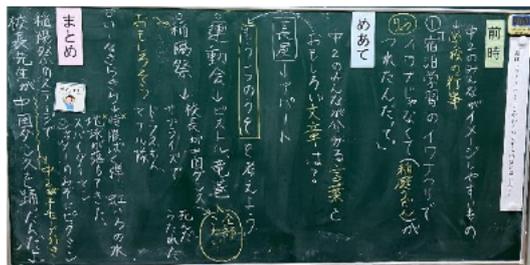
(表1) 年間指導計画を語る会① (記録より抜粋)

#### 4 授業記録の方法

Ⅲ-2-③「生徒自身が学びを振り返ったり、教師が生徒の学びを評価し、授業を振り返ったりするための板書や振り返りシートの工夫」を行うため、次の実践を行った。

##### (1) 活動や思考の流れが分かる板書(写真2)

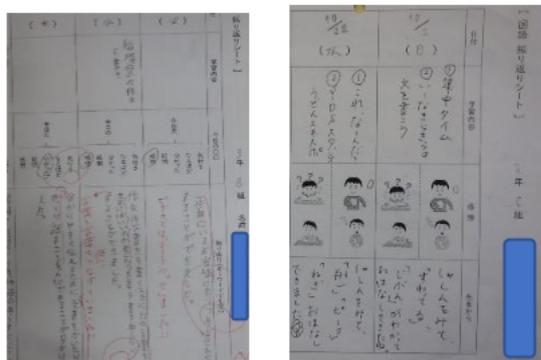
板書では、「前時」「めあて」「まとめ」を基本とし、「生徒から引き出すめあての設定」や「生徒の発言を書き入れる」などの工夫を行った。また、板書の写真を印刷し、生徒のファイルに綴じすることで、本時の学びを生徒と共有し、次時の導入にスムーズにつながられるようにした。



(写真2) 板書の実際

##### (2) 実態に合った振り返りシートの活用(写真3)

振り返りシートは3パターン準備し、生徒の実態に合ったシートを活用した。振り返りで書く内容は、生徒が本時で学んだこと、つまり「まとめ」につながる部分を書くように促しつつも、生徒の感じた思いや書きたい内容を尊重したり、自身の振り返りが難しい生徒については、教師がエピソードを記録したりするなどの工夫をした。



(写真3) 振り返りシートの実際

#### 5 授業実践

※ P 33 ページに記載

#### 6 年間指導計画を語る会②

生徒の変容や今年度の取組における成果と課題について話し合った。(次節に記載) また、2か年の国語科の実践を通して、年間指導計画作成に当たって高等部段階で大切にしたいことについて意見交換を行った。その中で

- ・生徒の興味・関心や学校生活に沿った題材・単元設定
- ・他学年への発表、修学旅行先への手紙など「誰に伝えるか」の明確化
- ・毎時のウォーミングアップや、同じ形式の単元(劇、新聞作り)を繰り返すなど見通しをもちやすくするための工夫の重要性を再確認した。

#### 7 「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

##### (1) 生徒の「聞くこと・話すこと」の変容(学部研のグループ協議から)

○自分から伝えようとする姿の深化

- ・自分の気持ちがうまく伝えられない場面でも、提示されたイラストを見ながら指さしたり、単語で答えたりすることができるようになった。

- ・国語の学習で学んだ語彙を積極的に活用しようとする場面が見られた。
- ・うまく伝わらないときにあきらめないで言葉を探して答えたり、ジェスチャーなどで気持ちを伝えたりする力が付いた。

○話を聞く態度やスキルの向上

- ・学部集会などの大きい集団の中でも、相手の目を見て話を聞くなどの改善が見られた。また、話を聞こうとする意識が高まり、普段の生活からメモを取ろうとする生徒が増えた。

## (2) 授業づくりの成果と課題

### ○成果

生徒の「聞くこと・話すこと」の向上につながる効果的な手立てを「授業づくりのポイント」の項目に沿って整理した。

項目	ポイント	具体的な手立て
題材・ 単元設定	・「聞きたい！話したい！」と思う興味・関心や学校生活に沿った内容	・生活単元学習や学校行事等との関連付け
	・「伝えたい！」と思う必然性のあるゴール	・身に付けたい力とゴールを取り入れた単元名
	・見通しがもてる繰り返しの活動	・同じ流れの単元構成 ・一単位時間の授業構成の固定化
授業の 展開	・生徒からの意見をつなぐ教師の適切な介入（ファシリテート）	・「つなぐ」意識をもち、生徒の表情や思いを汲み取った発問や指示
	・「聞く・話す」ために必要な思いや考えをもつ手立て	・イラストなどの視覚的な支援 ・ICTの活用（ロイロノート、ビデオ撮影、文章作成アプリなど）
学習環境	・活発な話し合いのための手立て	・話し合いのテーマと手順の提示 ・個で考える時間の設定 ・ペア学習や少人数での話し合い

(表2 「聞くこと・話すこと」の向上につながる効果的な手立て)

### ▲課題

生徒は、日常場面では自分から伝えようとする姿が増えたが、現場実習など普段と異なる場面では変容があまり見られず、学びを生活に定着させる工夫が不足していた。また、毎時の板書計画では情報量の精選が難しかった。板書を通して、生徒が視覚的に学びを実感できるようにする必要があったと考える。

これらの課題は別々ではなく連続したものとして捉える必要があり、板書や振り返りを通して一時間ごとの学びを実感させる積み重ねが、国語科で身に付けた力を多様な場面で生かす基盤になると考えられる。

## 8 今後に向けて

2年間の研究を通して、高等部国語科における授業づくりの基盤が形成され、「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた指導により、生徒の思いを表現する力が着実に高まった。

今後も、(表2)の内容を生徒の実態や学習グループの特性に応じて、より効果的かつ計画的に活用したい。また、振り返りシートや思考の流れが分かる板書を通じた学習の積み重ねを大切にしたい。そのことを通して、生徒が社会と関わることの楽しさを実感し、相手の立場や思いを尊重しながら、自らの考えを主体的に表現できるようにしたい。

## (1) 高等部2年Aグループ

### ◆生徒の実態

- ・男子6名。自分の意見を話すことに自信がなかったが、2年生になって1クラスとなり、日常的な会話が活発になったことで、授業の中でも意見交換できることが増えてきた。
- ・語彙不足、書いたものを読み返す習慣のなさなどから、相手の立場に立って分かりやすく伝える、書くといったことに課題が見られる生徒もいる。
- ・今年度は行事について新聞づくりを学習の中心とした国語の学習を行っている。繰り返し取り組むことで学習の流れに見通しをもち、苦手意識をもたずに学習に取り組んでいる。また、作ったものを読み合ったり提示したりすることを通して、伝えることの楽しさや自信が少しずつ育ってきている。

### ◆单元名 秋田稲川新報「宿泊学習編」～5W1Hを上手に使おう！～

### ◆单元目標

- ・「いつ、どこで、誰が、何を、どうしたか」を明確にした文章構成で原稿を書くことができる。(知技)
- ・宿泊学習で見聞きしたことや経験したことについて下級生に内容が伝わるように、新聞作りをする。  
(思判表)
- ・言葉には、思考を表出し他者に伝える働きがあることに気付き、新聞作りや友達との話し合いに進んで取り組もうとする。  
(学人)

### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語 1段階 ア(オ) イ(ア) Bイ ウ

### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもい表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実体験(宿泊学習)を扱った単元の設定。</li> <li>・肯定的、共感的な発言をし、伸び伸び発表できる雰囲気を作る。</li> <li>・自分の学びを振り返ることができる振り返りシート</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○相手意識をもたせることで、「この文章だと〇〇くんには伝わりにくいと思う。」「この言葉は難しいから、こっちの言葉にしよう。」などの意見が出るようになった。</p> <p>○前時の板書や写真を手掛かりに発言したり、記事を書いたりしていた。</p> <p>▲一人の生徒がたくさん発言しており、発言の偏りが見られた。</p> 

### ◆单元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同編集アプリを使うことで、友達の記事に対してアドバイスしたり、自分の文章と比較したりする様子が見られた。また、繰り返しの活動をすることで見通しをもつことができ、5W1Hを意識して相手に伝わりやすい文章を作成するようになってきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士で教え合いながら対話的で深い学びができるように、ロイロノート(共同編集アプリ)を活用する。</li> <li>・読み手に伝わりやすい記事を書くことができるように、全員で記事を肉付けする活動を設定する。</li> <li>・板書のコピーや写真など生徒の発言を引き出す手掛かりを準備する。</li> <li>・学習に見通しをもって取り組めるように、レイアウト表を用意して、文を書く位置や写真を貼る位置を明確にする。</li> </ul>

## (1) 高等部3年Bグループ

### ◆生徒の実態

- ・男子4名。4名とも自分の興味・関心のあることを中心に会話し、進んで周囲と関わりがもてる。
- ・自分の好きなことを一方的に伝えたり、内容を整理しないまま相手に伝えたりすることが多い。
- ・友達や教師の話に耳を傾けたり、注視したりすることが難しい生徒がいる。また、内容が分からないまま相づちをしたり、話を聞き流してしまったりする生徒もいる。

### ◆単元名 「劇団トライスK②～中2がわくわくする内容と話し方～」

### ◆単元目標

- ・教科書にある内容を中学部の生徒が分かりやすく楽しく感じることができるよう、現代風の内容を創作する。(知技)
- ・教科書「最後のうそ」の場面の様子や登場人物の心情を読み取ったり、読んで感じたことの意見を伝え合ったりする。(思判表)
- ・分かりやすく伝わるように、声の大きさや速さ、話し方を工夫して練習する。(学人)

### ◆学習指導要領の内容

- ・ 中学部国語 1段階 B ウ  
2段階 A イウエ 、 C アイオ

### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもい表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇を通した動きのある活動を取り入れる。</li> <li>・興味を高めるために身近な生活場面を取り入れる。</li> <li>・感想や意見を伝え合うときに、安心した気持ちで発表できるような雰囲気作りをする。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○中学部2年生が分かりやすく楽しめるように、教科書の内容に学校祭や宿泊学習の内容を取り入れるなど自分たちで意見を出し合っていた。</p> <p>○演技の様子を動画に撮り、自分たちで振り返ることで「〇〇くん、いいね」「もっとゆっくり話せばいいかな」など意見を出し合っていた。</p> <p>▲話合いが盛り上がり、めあてから少しずれる場面が見られた。</p> 

### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴール(発表場面)を明確にしたことで、意欲が高まり、積極的な話合いが見られた。また、普段は周囲の様子をうかがう生徒が積極的にアイデアを伝えたり、自分と違う意見をあまり受け入れられない生徒が友達の発言を認めたりする場面が多く見られた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のゴールをどうしたいか、生徒からの意見を取り入れながら設定する。</li> <li>・教科書を原作にし、その内容を創作することで、適切な時数で単元設定ができ、生徒が見通しをもって取り組める。</li> <li>・タブレット端末を活用し、演技の様子をその場で振り返ることで、自身の話し方を客観的に観ることができ、伝わりやすい話し方を深められる。</li> <li>・話合い場面で、自分の意見をもち、進んで発表できるように、事前にワークシートを記入する時間を設定する。</li> </ul>

## (1) 高等部3年Cグループ

### ◆生徒の実態

- ・男子3名、女子1名。4名とも言葉でのやりとりが可能である。
- ・自分の好きなことや興味・関心のあることについては進んで伝えることができる生徒が多い。
- ・行事等の自分の経験したことについて、写真や動画を手掛かりに、行ったことを単語で伝える生徒や、そのときの様々なことを想起して表現できる生徒がいる。
- ・自分の想いを積極的に伝えたい生徒と、自分から伝えることは難しく、教師の支援が必要な生徒がいる。
- ・主語がないなど、相手に伝わるように話すことが難しい生徒が多い。
- ・他者の話に興味をもったり、最後まで聞いたりすることが難しい生徒が多い。

### ◆単元名 「YDSスタジオ～稲川ニュース！」

### ◆単元目標

- ・経験したことや興味のあることについて、伝えたい内容を整理して書いたり、話したりする。  
(知技) (思判表)
- ・他者に伝わりやすい声の速さや大きさなどを意識して話す。(学人)

### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語 2段階 A エ 1段階 B ア、イ

### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>おもい表現するための仕掛け 受け止めるための仕掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験した行事について文章にまとめてグループ内で紹介したり、まとめた文章をニュース仕立てにして他のグループの友達や教師に発表したりする場面を設定した。</li> <li>・文章をまとめるために、「いつ、どこで、だれが、何をした、気持ち」など、生徒の実態に応じて項目を設定した。</li> <li>・自分の気持ちを表現できるように、「気持ちのイラスト」を準備し、選択する場面を設定した。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いつ、どこで、だれが、何をした、気持ち」などの項目を設定したことで、伝えたいことを整理して文章にまとめることができた。</li> <li>○ニュースにして友達や教師に発表することを楽しみに意欲的に取り組んだ。</li> <li>▲自分の気持ちを伝えることが難しい生徒の想いを汲み取ることや、その思いに寄り添った選択肢などの工夫が更に必要であった。</li> </ul> 

### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するという単元の目的を明確にしたことで、楽しみに文章をまとめたり、話す練習に取り組んだりすることができた。発表の際は、「いいですね」とお互いを認め合う発言が見られたり、褒められて喜んだりする姿が見られた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ、誰に、発表する」という目的や学習予定を明確に伝える。</li> <li>・文章をまとめる項目の設定や、選択肢の工夫をする。</li> <li>・文章にまとめる→伝える→認められる→喜びにつながる場を繰り返し設定し、意欲や達成感につなげる。</li> </ul>

## 第1回全校授業研究会(高等部)の見どころ

### 高等部研究では…

○興味関心、実体験に基づいた題材 ○情報量の整理、話題や目的の明確化 ○教師の適切な介入  
○写真、イラストなどの視覚的な支援

といった、『聞くこと・話すこと』の授業づくりのポイント」を押さえる効果を感じながら授業づくりに取り組んでいます。授業づくりの課題としては、

- ▲単元目標を学習指導要領に沿って毎回立てることは難しい。
- ▲子どものつまずきをシミュレーションし、対応策を講じることが難しい。
- ▲個から集へ、集から個への展開が、そのときの授業によってはうまく機能しないことがある。
- ▲生徒の実態に応じた発問を考えて授業づくりをする時間がない。 ▲板書が難しい。

などの声が上がっています。日々の授業の中でこれらのことを丁寧に、確実に実践できているか不安を感じている先生方が多くいます。日々研等の機会を通して日常的な実践に結び付けたいです。

研究計画にある「学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善」について、2学期からは ①生徒が記入する振り返りシート と ②授業の流れや生徒達の言語活動、めあてとまとめの整合性を評価するための板書の記録（写真に撮る）に取り組むことにしています。

### 高等部2年国語Aグループは…

- 男子6名の学習グループです。自分の意見を話すことに自信のない生徒たちでしたが、2年生になって1クラスになり、日常的な会話を活発に行うようになって、授業の中でも意見交換できることが増えてきました。
- 語彙不足、書いたものを読み返す習慣のなさなどから、相手の立場に立って分かりやすく伝える、書くといったことに課題が見られる生徒たちです。
- 今年度は行事についても新聞づくりを学習の中心とした国語科の学習を行っています。繰り返し取り組むことで学習の流れに見通しをもち、苦手意識を持たずに学習に取り組んでいます。また、作ったものを読み合ったり掲示したりすることを通して、伝えることの楽しさや自信をもてるようになってきています。

### 今回提示する授業では…

- 9月17、18日に秋田市で行った宿泊学習について、高等部1年生に伝えるための新聞づくりの学習をします。本時は赤れんが郷土館を見学したことについての記事づくりです。
- 表現力や語彙の不足を補い合うために、赤れんが郷土館を見学して分かったことや感想などをみんなで出し合い、その中から自分の思いに合った言葉を選びつなぎ合わせて、個々に記事を作成します。全員で共有した活動で、それぞれに感じたことを伝え合い、文章化する学習を通して、工夫して表現するおもしろさを感じ取らせます。



(『研究部報 Create No.6』より)

## 第1回全校研(高)を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

第1回全校授業研究会では、授業提示ありがとうございました。指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

### 指導助言(本校教諭(兼)教育専門監 伊藤 優子)より

授業を見ていただいて、以下の指導助言をいただきました。

- 生徒の実態を踏まえ、学習指導要領を目安として柔軟に指導しているのがよい。
- 「理由→結論」と表現するのが得意な生徒と「結論→理由」と表現するのが得意な生徒がいる。生徒の特性に合わせた手立てを講じること。手立てがはまると予想した行動が引き出せる。
- 発言の多少の偏りができないように、マイクリレーをするなどの工夫が必要。
- めあてに立ち返る場面を設定することが大事。
- 振り返りの時間で「何を伝えたかったのか」を明確にすることが重要。

併せて、言葉を扱えるようになるための順番について、『実践みんなの特別支援教育』に掲載されている記事をもとに丁寧にお話いただきました。

言葉の発達の順番を押さえておくことで、言葉を使うことが苦手な子どもがどの段階でつまずいているのか見当を付けることができる。言葉の発達は「イメージ形成(単語→二語文)」→「因果関係理解」→「他者視点獲得」→「論理的操作」→「抽象的思考」と段階的に進む。特別支援教育では子どもがどの段階にいるかを把握した上で授業内容を組み立てることが大切である。

国語の授業に限らないことですが、改めて児童生徒のつまずきの原因を把握し、実態に応じた手立てを講じることの大切さを教えていただきました。

### グループ協議より、「授業づくりのポイント」を踏まえた成果と改善案

#### 題材・単元の設定

◎実体験(宿泊学習)を扱った単元

#### 授業の展開

◎「高等部1年生に宿泊学習を伝える新聞を作る」という相手意識の持たせ方が良い。

◎生徒が前時の板書のコピーを手掛かりに前時とのつながりを理解した。

◎生徒が板書のコピーや写真を手掛かりにして発言していた。

△「どうすればよい記事になるか」について、文字の大きさや振り仮名の有無についての意見を出す生徒がいた。→◇**話合いがぶれないような、本時のめあてに立ち返る場面の設定**

△赤れんが郷土館の情報が多く、記事がまとまらない生徒がいた。→◇**情報を色分けするなどの工夫**

△一人の生徒がたくさん発言していた。→◇**バランスの良い発言になるような適切な介入**

#### 学習環境

◎話しやすい雰囲気、教師の肯定的・共感的な発言で、生徒が伸び伸び発言していた。

今回の提示授業で生徒の発言を引き出す良かった手立てとして、「手掛かり」が一つのキーワードになっていました。子どもたちが「聞く・話す」ために効果的な「手掛かり」を用意することが授業づくりのポイントに加えられるのではないのでしょうか。

(『研究部報 Create No.7』より)

## 第 3 部 研究のまとめ

## 1 「聞くこと・話すこと」の力を育てるために有効な手立てのまとめ

### (1) 授業づくりのポイント

各学習グループの授業実践で、共通して効果的であった手立ては「興味・関心」「身近」「生活に即した」「実体験」「必然性」などがある題材設定であり、児童生徒が「聞きたい、話したい」と感じられる題材の有効性について確認した。また、視覚的な手立てやICT活用などが「聞く・話す」上で効果があった。「聞く・話す」の可視化としては、特に思考や学習の流れが分かる板書が有効であった。

安心して発言できる環境の中、児童生徒同士の学び合いの中で「聞く・話す」力を育てていくよさについても再確認できた。教師の発問や児童生徒を受容する言葉掛けが「聞く・話す」力を育てる言語環境の一部であることの意識についても定着した。

昨年度まとめた「授業づくりのポイント」に今年度の学びを加え、P40のように整理した。「聞くこと・話すこと」のみに関わらず、授業づくりに大切にしたいことが多く含まれている。次年度以降も様々な授業づくりで参考にしていきたい。

### (2) 単元と言語活動の実践例

全校授業研究会や指導主事計画訪問、「日々の授業研修」で、全ての国語科学習グループで「聞くこと・話すこと」の授業提示を行い、「聞く・話す」力を育てる上で、様々な題材・単元で児童生徒の実態に応じた言語活動を工夫して実践した。それらの授業の単元名や取り入れた言語活動を、学習指導要領の内容に沿ってP41のように整理した。まだ工夫・改善の余地はあるが、次年度以降の授業づくりの参考にしていきたい。

## 2 成果と課題

### (1) 成果

- 各学部の年間指導計画立案のポイントを踏まえた「年間指導計画を語る会」による複数の視点での評価・改善
  - 「R6研究より、授業づくりのポイント」を生かした授業づくりと評価、改善
  - 「日々研共有の会」での職員間の学び合い
  - 授業記録を通じた見取りと授業改善
- 以上の授業づくりにおける成果を受けて、各学部の実践にもまとめられているように、児童生徒のおもいを表現する力についてよい変容が見られた。中でも、安心できる環境（言語環境の一部としての、教師の発言・発問等を含む）の中、児童生徒の学び合いを通して「聞く・話す」力が育まれていることが確認されたことは、本実践の仮説にもつながる成果であった。

### (2) 課題

1月に行ったアンケートから、授業づくりで本校の職員が以下の点で難しいと感じていることが分かった。

- ▲「何が身に付くか」という指導内容を焦点化し、授業づくりをすること。
- ▲児童生徒同士で学び合うことのよさを生かし、実態差への対応と両立させること（言語活動の質の向上、教師の介入の加減、情意面への配慮 等）。
- ▲学習したことが定着したり、他の学習場面で生かしたりすること。

以上の点については、今後の国語科の授業づくりで意識して取り組んでいきたい。

また、「おもいを表現する力」を高めるために2年間実践した「聞く・話す」ことの効果的な指導方法については、国語科以外の授業づくりでも生かすことで、児童生徒の様々な場面における「おもいを表現する力」はより高まるのではないかと考える。

### 3 次年度に向けて

2か年、国語科の授業づくりについての実践を行い、教科の授業づくりについて研鑽を積んだ。その実践を基盤とし、次年度は知的障害特別支援学校の授業の要でもある生活単元学習の授業づくりについて取り組んでいきたい。

年度末に、本校職員に生活単元学習について思うことのアンケートを取った。本校の職員は、学習集団の実態の幅を生かしながら、興味・関心や学校生活との関連のある単元を、ねらいを共有しながら繰り返し行うことで、見通しと集団としての主体性を持たせ、学び合いを展開することを理想としていることが読み取れた。

一方で様々な行事等がある中で年間計画を立てることや時数の確保をすることが難しい、やるべきことが多く行事単元がメインになりがち、実態の幅が広く単元の柱を何にしたらよいかといった悩み、教科をどう取り入れていくかという課題が多く挙げられた。本校にとって「生活単元学習」という「各教科等を合わせた指導」がどうあるべきか、本校の同僚性を生かしながら、学校一丸となって実践することを通して、改めて考えていきたい。

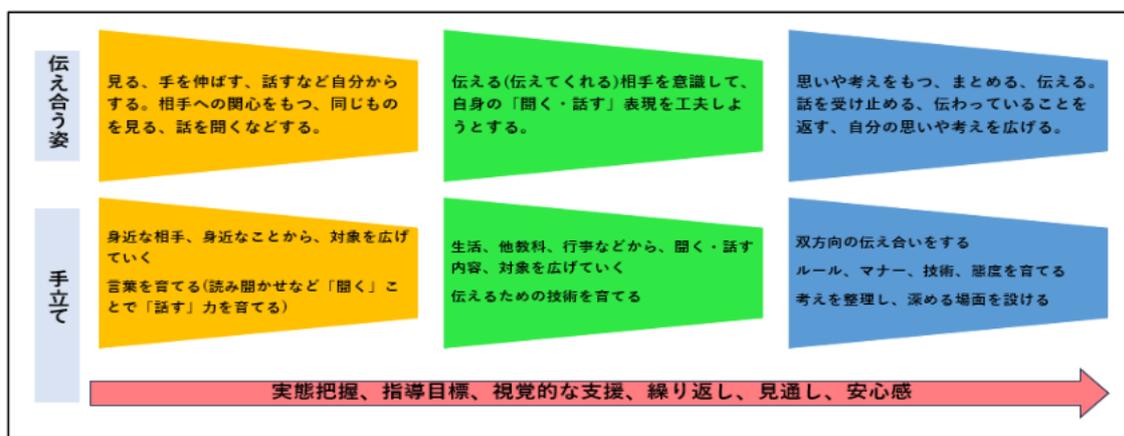
### 参考

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)  
平成30年3月 文部科学省
- ・特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)  
平成30年3月 文部科学省
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上)(高等部)  
平成31年2月 文部科学省
- ・令和5年度実践の記録「いなよう」第37集 秋田県立稲川支援学校
- ・令和6年度実践の記録「いなよう」第38集 秋田県立稲川支援学校

【R7の実践より、国語科「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイント】

題材の設定	実態に合った、興味・関心、実体験、共感、必然性がある題材	
単元の設定	単元を通して身に付けさせたいことの精選	
	「どんな学習活動を通して」「何が身に付くか」が分かり、子どもの意欲を高める単元名	
	「聞く・話す」相手や目的が明確な単元	
準備	子どもの思考のシミュレーション	
	子どもの特性に応じた手立ての準備（ワークシート、ICT等）	
	「聞く・話す」情報量の整理	
	適切な座配等の教室環境	
	ゴールから考える、「めあて」の「まとめ」の整合性のある授業づくり	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本時のまとめの設定</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">まとめにつながる HowTo型のめあての設定</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習活動・言語活動の設定</div> </div>		
資質・能力が身に付いたと言える具体的な姿の設定		
導入	※参考：秋田の探究型授業の基本プロセス	学習活動と振り返りにつながるめあての提示 ※子どもから引き出す。
	学習の見通しをもつ	
授業の展開	自分の考えをもつ	教師の適切な介入（子ども同士をつなぐ言葉掛け、徐々に子ども同士の関わりになる展開、適切な発問の量等）
	集団で話し合う (グループ・ペア)	発問、発言、思考の流れの視覚化（板書、短冊、画像、動画等）
		子どもが思考する時間の確保
		めあてに立ち返る場面の設定
振り返り	学習の内容や方法を振り返る	子どもの実態に応じた発問
		本時の学びを子どもが自分で評価する場面の設定
		できた理由、つまずきの理由を子どもが言語化する場面設定 「何が身に付いたか」「何に生かせるのか」身に付けた資質・能力を教師が価値付けする場面設定
評価	評価規準に基づく評価→授業改善に生かす	
学習環境	安心して気持ちを伝えられる、子ども同士、教師と子どもの関係づくり	
	子どもにとって身近な言語環境としての、教師の「聞く・話す」姿	

【参考：伝え合う姿と引き出す手立て（R6研究より）】



令和7年度の実践より、「聞くこと・話すこと」に関連した単元・言語活動一覧

内容	育てたい力 (相当する学部・段階)	単元名 (実施学習グループ)	言語活動
ア	身振りや音声で伝える力 (小1)	「伝えよう」 (中2㉔)	身近な物を動作で表す。タブレットを使って気持ちを表す。
	話を聞いて理解し、答える力 (小2)	「いろいろなことば」 (小3)	ヒントを聞いて物の名前を答える。
	話の内容を理解する力 (小3)	「物語を読んでお話ししよう」 (小4①)	物語を聞く。簡単な質問に答える。
		「読み取り名人になろう」 (高2㉔)	身近な資料を見合い、気付いたことを伝え合う。
		「おおきなだいこん」 (小4③)	劇遊びをする。
話を聞いて内容を捉える力 (中1)	「先生紹介ムービーを作ろう」 (中2㉔)	インタビュー。聞き取り。文字おこし。	
イ	平仮名の理解。物や動作などの言葉の理解 (小2)	「ペンギんたいそう」 (小1)	絵本に登場する体の部位の名称や動作を表す言葉について、体に触れたり文字カードを並べたり、動作したりする。
		「なまえ、なにかな」 (小2)	食べ物の写真を見る。名前を答える。教師の質問に答える。平仮名を書く。
	経験したことを思い出して話す力 (小3)	「思い出し名人になろう」 (高2㉔)	行事等の写真を見合い、思い出したことを伝え合う。作文する。
		「頑張ったことを伝えよう」 (高1㉔)	行事等の写真を見合い、思い出したことを話伝え合う。「はじめに」「次に」などの言葉を用いてまとめる。
		「稲川ニュース」 (高3㉔)	写真を見て、出来事を話す。教師の質問に答える。単語カードを並べて作文する。
		「伝えよう」 (中2㉔)	行事の写真を見て、出来事や感想を伝え合う。
		「思い出を伝えよう」 (中1)	行事の写真を見て、「だれが、なにをした」を話す。
「おもいでをはなそう」 (小4②)	写真を見て「だれが、なにをした」を話す。		
相手を意識し、話し方や内容を工夫する力 (高1)	「劇団トライスK」 (高3㉔)	物語の読み取り。分かりやすい表現となるような言葉の変換。劇の練習と改善。	
ウ	自分の気持ちや考えを伝える力 (小3)	「気持ちを伝えよう」 (高3㉔)	行事や風物詩の写真やイラストを見合って、思いついたことを自由に伝え合う。理由を添えて「好き」「楽しみ」を伝え合う。
		「ぎょうじをふりかえろう」 (中3)	行事の写真を見合って出来事を答える。気持ちをイラストカードから選ぶ。
	内容を整理して話す力 (中2)	「行事新聞を作ろう」 (高2㉔)	出来事について作文をし、読み合って感想を伝えたり、校正し合ったりする。
		「お手紙マスター」 (高3㉔)	修学旅行の体験活動で楽しみにしていることを話し合い、体験先へ手紙を書く。
		「3まいのカードをつかっちはなそう」 (中3)	生活動作について「はじめに」「つぎに」「さいごに」を使って表現する。
「思い出や感想を分かりやすく伝えよう」 (中2㉔)	5W1Hのワークシートを活用して文章を作成する。		
エ	相手に伝わる発音や声の大きさ等で話す力 (小2～中2)	「はらべこあおむし～〇〇をたべました～」 (小4③)	オリジナル絵本を作り、音読する。
		「めざせ、おはなしめいじん!」 (小5)	インタビューの練習を行い、インタビューする。
		「いなかわほうそうきょく」 (小6)	修学旅行の体験を紹介する動画にナレーションをつける。
		「サウンドドラマを作ろう」 (小6)	サウンドドラマの台詞練習をする。
「私のトリセツ 伝えよう、受け取ろう」 (高1㉔)	自己紹介文を作成し、発表する。		
オ	自分の考えや感じたことを目的に応じて伝える力 (高1)	「夏井いつき先生から俳句を学ぼう」 (高3㉔)	俳句を作る。感想を伝え合う。
カ	話題に沿ってやり取りする力 (小3)	「おはなししよう」 (小2)	テーマ (好きなお菓子、行事など) に沿って、教師の質問に答えたり、友達の発言を受けて発話したりする。

# 研究同人

校長 佐々木義範

教頭 時田 航 長沢留美子

事務長 半田 武伸

## <小学部>

笹山 友美

佐藤 深雪

佐藤真紀子

高橋 美咲

高橋 健太

牧野 花凜

丸山めぐみ

アンワー留美子

高橋 真

鈴木 朋子

金澤めぐみ

藤平 陽子

佐々木奈央

川喜田かしこ

古関利加子

中川 浩孝

遠山 洋平

岩井小百合

小形美穂子

佐藤美智子

佐々木麻理奈

鈴木空瑠美

高橋 靖子

## <中学部>

室井 克典

佐藤 早苗

山口 梓

今野 貞子

伊藤 優子

岩田 隆彦

佐藤 麻依

山田 裕子

山田 育宏

笹原 啓

石川 慈花

## <高等部>

近 裕樹

大沼 護

久保市昌子

築瀬 智佳

渋谷 康之

佐々木麻杏子

松岡 一

佐々木理枝 (研究主任)

近 亜希子

季子 康太

阿部 哲哉

和泉かく子

高橋沙也香

菅 香

小西 和晴

小田長裕之

佐藤 洋子

佐々木菜摘

大沼 恵子

佐藤ますみ

## 令和7年度 実践の記録「いなよう」 第39集

発行年月日 令和8年3月

発行 秋田県立稲川支援学校

〒012-0104 秋田県湯沢市駒形町字八面寺下谷地33番地の2

TEL 0183-42-4424 FAX 0183-42-4874

ホームページアドレス <http://www.inakawa-s.akita-pref.ed.jp>

メールアドレス [inakawa-s@akita-pref.ed.jp](mailto:inakawa-s@akita-pref.ed.jp)